

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	アナウンスメントの基礎						
担当教員	吉岡 美賀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アナウンスメントの基本とされるニュース原稿の読みについて理解と実践						
授業の概要	始めに、日本語の音声学の基礎的知識を習得することを目指す。日本語の音声の仕組みを学び、アナウンスメントの基礎を通して身につけたことが、日本語での口頭表現、プレゼンテーションの技法の向上につながる事となる。発声練習をはじめ、発音、アクセント、滑舌など、アナウンスの基本に触れる。その後、アナウンスメントの基礎となるニュース原稿を読んで実践に取り組む。その様子をVTR収録し、視聴して講評する形で授業を行う。						
到達目標	ニュース原稿を読む技術を理解し、実践できること						
授業計画	第1回 講義説明と発声練習 第2回 発声練習 第3回 日本語における各音節の発音 第4回 ガ行鼻濁音 第5回 母音の無声化 第6回 短文練習 第7回 アクセント 第8回 アクセント練習 第9回 ニュース原稿の読み方①（時事・政治） 第10回 ニュース②（時事・経済） 第11回 ニュース③（季節・行事） 第12回 ニュース④（季節・行事） 第13回 ショートニュースの読み方 VTR収録のための諸注意 第14回 VTR収録 第15回 VTR視聴と講評 （受講者数によって内容が前後したり、変更することがあります。）						
授業外における学習（準備学習の内容）	普段から声を出すことを意識的に行うこと。後半は実践が主になるので、発表の前には必ず練習をしておくこと。練習は必ず本番をイメージして行うこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	実技40%、ミニレポート(授業の中で提出) 60%、欠席は減点。遅刻は3回で欠席1回と同等扱い。10回以上の出席と課題実技（VTR収録）がなければ、単位は認めない。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	応用文章表現法A						
担当教員	岡田 裕子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	文章表現力の養成						
授業の概要	日本語の文章表現についての知識と、その運用力を高めるための方法を学び、練習します。事実や主張を相手に誤解なく伝えられるように、客観的、論理的な文章を書く練習をしたうえで、それらをいつ、どのように用いれば効果的か、ということを考え実践していきます。						
到達目標	1. 日本語の文の構造、文体について基本的な知識を身につける。 2. 実用文、ビジネス文書、私信などを作成する際の基本的ルールを知る。 3. レポート、論文の書き方などの基本的な知識を身につける。						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 メールの書き方・敬語 1 第3回 手紙の書き方・敬語 2 第4回 はがきの書き方・敬語 3 第5回 論証文 1 構成 第6回 論証文 2 引用 第7回 振り返り・テスト 第8回 説明文 1 描写 第9回 説明文 2 報告 第10回 説明文 3 第11回 グループワーク 1 作成 第12回 グループワーク 2 発表 第13回 レポートの作成 1 テーマ 第14回 レポートの作成 2 構成 第15回 レポートの推敲・修正、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	さまざまな形式の文章に慣れるため、また、見本となる文章を自分の中に蓄積するため、日ごろから新聞や小説その他の書籍をたくさん読んでください。						
授業方法	毎回まず新聞のコラム等のテキストを読み、漢字の読み書きや文章要約を行います。その後、演習形式で、毎回何らかの文章を書きます。ペアワークやグループワークを取り入れることもあります。						
評価基準と評価方法	毎回の授業内課題・漢字クイズ・授業参加態度・テストおよび最終レポートの総合評価とします。 テストおよび最終レポート50% 授業内課題（宿題含む）30%・新聞テキスト10%・授業参加態度10% ※3回を超えて欠席した場合、最終評価の対象としません。 ※テストを欠席した場合および最終レポートを提出しなかった場合も、最終評価の対象としません。 （ただし、正式な理由があってテストを欠席した場合は、必ず教務課に届け出ること。 教務課からの届けをもって、再テストまたは別の課題等を指示します。）						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目							
科目名	応用文章表現法B							
担当教員	岡田 裕子							
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	文章表現力の養成							
授業の概要	日本語の文章表現についての知識と、その運用力を高めるための方法を学び、練習します。事実や主張を相手に誤解なく伝えられるように、客観的、論理的な文章を書く練習をしたうえで、それらをいつ、どのように用いれば効果的か、ということを考え実践していきます。							
到達目標	1. 日本語の文の構造、文体について基本的な知識を身につける。 2. 実用文、ビジネス文書、私信などを作成する際の基本的ルールを知る。 3. レポート、論文の書き方などの基本的な知識を身につける。							
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 就活に必要な文章 1 自己分析 第3回 就活に必要な文章 2 メール・手紙 第4回 社会で役立つ文章 1 お知らせ 第5回 社会で役立つ文章 2 報告書 第6回 社会で役立つ文章 3 議事録 第7回 振り返り・テスト 第8回 さまざまな文章 1 新聞記事 第9回 さまざまな文章 2 テキスト比較 第10回 さまざまな文章 3 意見の主張 第11回 グループワーク 1 作成 第12回 グループワーク 2 発表 第13回 レポートの作成 1 テーマ 第14回 レポートの作成 2 構成 第15回 レポートの推敲・修正、まとめ							
授業外における学習（準備学習の内容）	さまざまな形式の文章に慣れるため、また、見本となる文章を自分の中に蓄積するため、日ごろから新聞や小説その他の書籍をたくさん読んでください。							
授業方法	毎回まず新聞のコラム等のテキストを読み、漢字の読み書きや文章要約を行います。その後、演習形式で、毎回何らかの文章を書きます。ペアワークやグループワークを取り入れることもあります。							
評価基準と評価方法	毎回の授業内課題・漢字クイズ・授業参加態度・テストおよび最終レポートの総合評価とします。 テストおよび最終レポート50% 授業内課題（宿題含む）30%・新聞テキスト10%・授業参加態度10% ※3回を超えて欠席した場合、最終評価の対象としません。 ※テストを欠席した場合および最終レポートを提出しなかった場合も、最終評価の対象としません。 （ただし、正式な理由があってテストを欠席した場合は、必ず教務課に届け出ること。 教務課からの届けをもって、再テストまたは別の課題等を指示します。）							
教科書	適宜プリントを使用します。							
参考書	授業中に紹介します。							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	音韻・表記の基礎知識						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語および諸外国語の音聲、音韻、文字、表記。						
授業の概要	下記到達目標を達成する爲の講義とそれに基づく試験。						
到達目標	音と文字の関係を知る。 音聲と音韻の差異を知る。 日本語の文字・表記の歴史に関する知識を学ぶ。 學説が必ずしも定まってゐないことを知る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 音聲と音素 03: 国際音聲字母 (IPA) 04: 五十音圖 05: アクセント 06: 語聲調 07: モーラと音節 08: 文章指導 09: 漢字と假名の使ひ分け 10: 表音文字と表意文字 11: 漢字の到來と假名の發生 12: 縦書きと横書き (1): 日本語の特異性 13: 縦書きと横書き (2): 横書き登場 14: 【試験】 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習（準備学習の内容）	教員が manaba にアップロードする豫習資料は事前に読んでおくこと。 授業は豫習 (= 事前讀書) を前提に進める。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	日々の課題およびその添削: 50點 試験: 50點 出席點は無く、出缺も取らない。						
教科書	教員が manaba にアップロードする資料。						
参考書	上山 あゆみ (1991) 『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』、くろしお出版 樺島 忠夫 (1979) 『日本の文字—表記体系を考える—』 (岩波新書・黄版75)、岩波書店 小泉 保 (1993) 『日本語教師のための言語学入門』、大修館書店 小泉 保 (1996) 『音声学入門』、大学書林 小松 茂美 (1968) 『かな—その成立と変遷—』 (岩波新書・青版679)、岩波書店 服部 四郎 (1951) 『音声学』 (岩波全書131)、岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』、大修館書店 屋名池 誠 (2003) 『横書き登場—日本語表記の近代—』 (岩波新書・新赤版863)、岩波書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	華道文化を学ぶ／華道史						
担当教員	小林 善帆						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の伝統的文化としての、いけ花を考える						
授業の概要	「いけ花」（華道）は現在につづく日本の芸道である。その起源は、仏に花を供える「供花」にあると言われる。平安時代に既に花を立てた例も確認されるが、「いけ花」の成立は室町後期のことで、後土御門天皇、足利義政、池坊専応・専栄・初代専好の時代にその様式が確立する。安土桃山文化の中に花開いた「いけ花」の美は、江戸時代にさらに洗練され、池坊以外の多くの流派をも生み出し、様式も確立する。近代には海外にも波及し、その文化は現在に継承されることとなる。この「いけ花」の歴史を、花の伝書や、いけ花展・いけ花の資料展の見学により、その実際を確認しながら学ぶ。						
到達目標	華道の歴史と理論を基本的な実技を知り、学ぶことから、日本文化の形成と本質を理解し、教養を深め、国内はもとより海外へ日本文化紹介を、おこなえるようにする。						
授業計画	第一回 概説 日本文化と「いけ花」（華道） 第二回 いけ花の通史 用語解説 第三回 いけ花を取り巻く諸芸能 第四回 「たて花」と連歌 第五回 いけ花展、いけ花の資料展の見学 第六回 花の伝書1『仙伝抄』『専応口伝』 第七回 「抛入花」「茶花」 第八回 花の伝書2『立花大全』『立花時勢粧』 第九回 「文人生」中国瓶花の影響 第十回 花の伝書3『挿花百練』 第十一回 「盛花」以後のいけ花 第十二回 女子教育といけ花 第十三回 プロテスタン主義女学校といけ花 第十四回 植民地といけ花 第十五回 まとめ 質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で興味を持ったことに関して、図書館で調べる。 各自、華道展に行ってみたり、部屋に花をいけてみたりする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート50%、平常点（小テストなどを含む）50%						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	『「花」の成立と展開』小林善帆 和泉書院 2007年 ISBN978-4-7576-0441-4 『一八世紀日本の文化状況と国際環境』笠谷和比古編 思文閣出版 2011年 ISBN978-4-7842-1580-5 『花信のこころ 花と禅』珠寶 昭和堂 2009年 ISBN978-4-8122-0938-7						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文を読むA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国三千年の歴史と、それを受容した先人の工夫を理解する。						
授業の概要	中国とその文学の歴史を把握するとともに、それを受容するための工夫、すなわち中国語を日本語の体系に組み入れた訓読法の諸相を学ぶ。中国文学の流れの大枠を捉えた上で、実際に文献を読む実践編に入り、中国文学の本質に迫ることができるようにする。						
到達目標	漢文を通じて中国文化を正當に評価できる力を身に付ける。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：中国三千年の歴史 第3回：神話の時代 第4回：諸子百家の時代 第5回：諸子百家の思想 第6回：諸子百家の文学 第7回：漢代の散文 第8回：漢代の韻文 第9回：唐代の散文 第10回：唐代の韻文 第11回：唐詩選の受容 第12回：蒙求の時代 第13回：四大奇書 第14回：まとめと筆記試験 第15回：総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の中国とその歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	漢文学び方の基礎（改訂版） 近藤春雄著 武蔵野書院刊 ISBN：9784838606153						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文を読むB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国文化と日本文化の本当の理解						
授業の概要	すでに身に付けた漢文訓読の基礎を確実なものとし、その土台に基づいて「蒙求」「史記」「論語」などの文献を、実際に読む。さまざまなジャンルの作品を数多く読むことで、理屈のみではなく、感覚として、先人が苦勞して編み出してきた漢文訓読の偉大さを実感する。						
到達目標	「蒙求」などの講読を通して、中国文化の理解や日本文化への影響を理解する。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：漢文の作品についての概観 第3回：「蒙求」の講読 導入 第4回：「蒙求」の講読 展開 第5回：「蒙求」の講読 応用 第6回：「蒙求」の講読 まとめ 第7回：「史記」の講読 導入 第8回：「史記」の講読 展開 第9回：「史記」の講読 応用 第11回：「論語」の講読 導入 第11回：「論語」の講読 展開 第12回：「論語」の講読 応用 第13回：漢文の日本文学への影響 第14回：まとめと筆記試験 第15回：総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の中国とその歴史について詳しく学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。						
到達目標	大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 オリエンテーション 第3回 ノートの取り方 第4回 図書館の使い方 第5回 わかりにくい文 第6回 段落と中心文 第7回 読書レビューを書く 第8回 感想文 第9回 説明文 第10回 要約 第11回 事実文 第12回 意見文 第13回 レポートを書く1-レポートの形式を学ぶ- 第14回 レポートを書く2-資料を集める- 第15回 レポートを書く3-レポートを書く- 後期に向けての課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10%、授業参加・積極性:50%、試験あるいはレポート:40%。授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。						
到達目標	大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 オリエンテーション 第3回 ノートの取り方 第4回 図書館の使い方 第5回 わかりにくい文 第6回 段落と中心文 第7回 読書レビューを書く 第8回 感想文 第9回 説明文 第10回 要約 第11回 事実文 第12回 意見文 第13回 レポートを書く1-レポートの形式を学ぶ- 第14回 レポートを書く2-資料を集める- 第15回 レポートを書く3-レポートを書く- 後期に向けての課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題：10%、授業参加・積極性：50%、試験あるいはレポート：40%。授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期／1st semester	曜日・時間	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。						
到達目標	大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 オリエンテーション 第3回 ノートの取り方 第4回 図書館の使い方 第5回 わかりにくい文 第6回 段落と中心文 第7回 読書レビューを書く 第8回 感想文 第9回 説明文 第10回 要約 第11回 事実文 第12回 意見文 第13回 レポートを書く1-レポートの形式を学ぶ- 第14回 レポートを書く2-資料を集める- 第15回 レポートを書く3-レポートを書く- 後期に向けての課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題：10%、授業参加・積極性：50%、試験あるいはレポート：40%。授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を学ぶA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	樋口一葉研究						
授業の概要	樋口一葉について考える。『たけくらべ』の初出、再掲の過程を追うとともに、映画化や漫画化の諸相、変容のありさまをも視野に収める。						
到達目標	樋口一葉について考えることを通じて、近現代の文学への理解を深める。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代文学とは 第3回 樋口一葉のこと 第4回 奇蹟の14ヶ月 第5回 初出誌と再掲誌 第6回 『たけくらべ』 1～3章 第7回 『たけくらべ』 4～6章 第8回 『たけくらべ』 7～8章 第9回 『たけくらべ』 9～10章 第10回 『たけくらべ』 11～12章 第11回 『たけくらべ』 13～14章 第12回 『たけくらべ』 15～16章 第13回 後代への影響 第14回 今に生きる一葉・筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	19世紀から20世紀にかけての小説類を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
教科書	山本洋編『樋口一葉集』和泉書院 ISBN：978-4-87088-111-2						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を学ぶB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	織田作之助研究						
授業の概要	織田作之助の作品のうち、特に『夫婦善哉』について考える。 近代文学全般について理解を深める一助となるだろう。						
到達目標	影印（写真版）を活用し、執筆の現場を追体験することで、『夫婦善哉』正統の魅力を再発見する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 織田作之助のこと 第3回 大阪の文学 第4回 ドラマ化の問題 第5回 映画化の問題 第6回 夫婦善哉の正編 第7回 正編 発展 第8回 正編 展開 第9回 続編の発見 第10回 大分の生活 第11回 続編 発展 第12回 続編 展開 第13回 夫婦善哉の結末 第14回 とりあえずのまとめと筆記試験 第15回 全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	20世紀前半の小説類を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
教科書	織田作之助『夫婦善哉 完全版』雄松堂書店 ISBN: 978-4-8419-0467-3						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を読むA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	犯罪の観点から小説を読む						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、泉鏡花「外科室」と志賀直哉「范の犯罪」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家泉鏡花のこと 第3回 泉鏡花の作品について 第4回 泉鏡花「外科室」講読 導入 第5回 泉鏡花「外科室」講読 応用 第6回 泉鏡花「外科室」講読 発展 第7回 泉鏡花「外科室」講読 展開 第8回 泉鏡花「外科室」講読 まとめ 第9回 志賀直哉のこと 第10回 志賀直哉「范の犯罪」講読 導入 第11回 志賀直哉「范の犯罪」講読 応用 第12回 志賀直哉「范の犯罪」講読 発展 第13回 志賀直哉「范の犯罪」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を読むB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	探偵小説を読むこと						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、谷崎潤一郎「途上」と芥川龍之介「報恩記」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家谷崎潤一郎のこと 第3回 谷崎潤一郎の作品について 第4回 谷崎潤一郎「途上」講読 導入 第5回 谷崎潤一郎「途上」講読 応用 第6回 谷崎潤一郎「途上」講読 発展 第7回 谷崎潤一郎「途上」講読 展開 第8回 谷崎潤一郎「途上」講読 まとめ 第9回 芥川龍之介のこと 第10回 芥川龍之介「報恩記」講読 導入 第11回 芥川龍之介「報恩記」講読 応用 第12回 芥川龍之介「報恩記」講読 発展 第13回 芥川龍之介「報恩記」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に指示						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶC						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	近世のドラマを読む 時代物の浄瑠璃『出世景清』						
授業の概要	江戸時代を代表する芸能である人形浄瑠璃を読む。当時の庶民が熱狂したドラマはいかなるものであったのか。時代を超えて演じられ、読み続けられてきたのはなぜか。これを原文をじっくり読み解きながら考えたい。前期は歴史劇である時代物の作品の中から『出世景清』を読む。たった一人になりながら、源頼朝に最後まで反抗する平家の侍大将、景清の執念、その景清をさらなる窮地に追い込むのは最愛の女性。室町期以来の景清伝説に新風を吹き込んだ近松門左衛門の名作は浄瑠璃という芸能の可能性を切り開いた作でもある。						
到達目標	日本文化の代表の一つである浄瑠璃（時代物）の基礎と概要について説明することができる。						
授業計画	第1回 近世演劇史概説 時代物編 第2回 景清伝説 第3回 『出世景清』 第1-1 熱田大宮司館 第4回 『出世景清』 第1-2 東大寺大仏殿 第5回 『出世景清』 第2-1 阿古屋住家 第6回 『出世景清』 第2-2 清水寺 第7回 『出世景清』 第3-1 六波羅 第8回 『出世景清』 第3-2 六条河原 第9回 『出世景清』 第4-1 六波羅新牢 第10回 『出世景清』 第5-1 巨椋堤 第11回 『出世景清』 第5-2 清水寺轟坊 第12回 幸若舞曲『景清』と『出世景清』 第13回 『出世景清』の評判 第14回 近代の『出世景清』評価 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで舞台映像を見て学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配布。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶD						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	近世のドラマを読む 世話物の浄瑠璃『堀川波鼓』						
授業の概要	江戸時代を代表する芸能である人形浄瑠璃を読む。当時の庶民が熱狂したドラマはいかなるものであったのか。時代を超えて演じられ、読み続けられてきたのはなぜか。これを原文をじっくり読み解きながら考えたい。後期は当時の現代劇である世話物の作品の中から『堀川波鼓』を読む。江戸時代、結婚している女性が夫以外の男性と関係を持つことは犯罪であり「姦通」と呼ばれた。これが武士階級で起こった場合は、妻や相手の命だけでなく、夫である武士の面目に関わる一大事となった。この江戸時代のタブーを題材とした作の中から『堀川波鼓』を読む。参勤交代で夫が留守の家に起こった悲劇がどのように起こったのか、近松門左衛門は実説を元にしながら新たなドラマを作り上げた。						
到達目標	日本文化の代表の一つである浄瑠璃（世話物）の基礎と概要について説明することができる。						
授業計画	第1回 近世演劇史概説 世話物編 第2回 武士の一分「敵討」 第3回 『堀川波鼓』 上－1 鳥取藩留守を守る妻 第4回 『堀川波鼓』 上－2 子供の鼓の師匠 第5回 『堀川波鼓』 上－3 不義密通 第6回 『堀川波鼓』 中－1 夫の帰国 第7回 『堀川波鼓』 中－2 妻の妊娠 第8回 『堀川波鼓』 中－3 妻の自害 第9回 『堀川波鼓』 下－1 祇園祭の京都 第10回 『堀川波鼓』 下－2 妻敵の発見 第11回 『堀川波鼓』 下－3 敵討 第12回 姦通物『大経師昔暦』 第13回 姦通物『鍵の権三重帷子』 第14回 近代における評価 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のＡＶセンターにあるＤＶＤで舞台映像を見て学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配布。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むA						
担当教員	田中 まき						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『伊勢物語』の講読						
授業の概要	『伊勢物語』は在原業平とおぼしき「男」を主人公にした平安時代の歌物語である。その男の、様々な女性との恋のやり取り、惟喬親王や友人との親愛の情などが百二十五章段に描かれている。本講義では、『伊勢物語』の本文を読み味わいながら、物語がどのようにして作られ、どのように享受されてきたかを考察する。						
到達目標	古典文学史における『伊勢物語』の位置を説明できるようになる。 『伊勢物語』の口語訳がだいたいできるようになる。 古典語彙、文語文法などを理解し、古文読解の能力を高める。						
授業計画	第1回 物語文学の展開相と『伊勢物語』の概説講義 第2回 『伊勢物語』の成立と構成についての講義 第3回 『伊勢物語』第1段についての講義 第4回 『伊勢物語』第4段についての講読 第5回 『伊勢物語』第5段についての講読 第6回 『伊勢物語』第6段についての講読 第7回 『伊勢物語』第9段前半についての講読 第8回 『伊勢物語』第9段後半についての講読 第9回 『伊勢物語』第23段についての講読 第10回 『伊勢物語』第23段についての講読 第11回 『伊勢物語』第41段についての講読 第12回 『伊勢物語』第69段についての講読 第13回 『伊勢物語』第87段についての講読 第14回 まとめと期末テスト 第15回 『伊勢物語』の生成と享受についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	文語文法などの基礎的な知識を事前に学習しておく。 『伊勢物語』の講読を通して、古文読解の力を養うよう復習する。						
授業方法	講義と講読（受講者による担当発表）						
評価基準と評価方法	試験（期末試験と小テスト）（50%）、担当発表（40%）、平常点（10%）によって評価する。						
教科書	『新校注 伊勢物語』片桐洋一・田中まき校注（和泉書院）						
参考書	『伊勢物語全読解』片桐洋一（和泉書院） 新編日本古典文学全集『伊勢物語』福井貞助（小学館） 新日本古典文学大系『伊勢物語』秋山 虔（岩波書店） 『伊勢物語全評釈』竹岡正夫（右文書院）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むB						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	影印本ヲ用キテノ、漢字片假名交ジリ文獻ノ講讀演習 「影印本」ト云フ言葉ヲ知ッテ居ルダラウカ。古典ノ原典ヲ撮影シタ物デ、現在流通シテ居ル活字本トハ見栄エガ大キク異ナル。本授業デハ、影印本ニ據ル漢字片假名交ジリ文獻（『今昔物語集』、『太平記』、抄物等）ノ講讀ヲ通シテ、文獻學的知識ヲ身ニ附ケルト共ニ、現代人ニハ遠イ存在ト成ッテ仕舞ッタ文語文法ヲ學ブ。幸ヒ、片假名ハ平假名トハ異ナリ、時代差ニ據ル字形ノ相違ガ小サイ。故ニ、影印本ノ講讀ニ關シテ云ヘバ、漢字片假名交ジリ文獻ハ初學者ニ向イテ居ルト云ヘルダラウ。						
授業の概要	漢字片假名交ジリ文獻ノ概説 講讀用資料作成ノ指導 講讀用資料作成（翻刻、現代語譯、語釋） 講讀演習 發表擔當ト他ノ受講生ニ據ル質疑應答						
到達目標	古典ノ讀解力ヲ高メル。 漢字片假名交ジリ文ニ關スル文獻學的知識ヲ身ニ附ケル。 文語文法ヲ言語學的ニ分析シ、國文法ノ長所オヨビ短所ヲ知ル。 學説ガ必ズシモ定ッテ居ナイ事ヲ知ル。 卒業研究ノ種ヲ見附ケル。						
授業計画	01: 授業概要ノ説明ト受講生各自ノ擔當範圍ノ決定 02: 講讀用資料作成ノ指導（1） 03: 講讀用資料作成ノ指導（2） 04: 講讀用資料作成ノ指導（3） 05: 發表擔當者ヲ中心トスル講讀演習（1） 06: 發表擔當者ヲ中心トスル講讀演習（2） 07: 發表擔當者ヲ中心トスル講讀演習（3） 08: 此處マデノ問題點ノ反省 09: 發表擔當者ヲ中心トスル講讀演習（4） 10: 發表擔當者ヲ中心トスル講讀演習（5） 11: 發表擔當者ヲ中心トスル講讀演習（6） 12: 此處マデノ問題點ノ反省 13: 發表擔當者ヲ中心トスル講讀演習（7） 14: 發表擔當者ヲ中心トスル講讀演習（8） 15: 總括						
授業外における学習（準備学習の内容）	講讀用資料作成。 論文讀解。						
授業方法	講義オヨビ演習。						
評価基準と評価方法	學術發表：40點 質疑應答：20點 學期末報告書：40點 特段ノ理由無ク3回以上欠席シタ者ハ、ソノ最終成績ヲ0點トスル。						
教科書	圖書館ニ所蔵サレテ居ル種々ノ漢字片假名交ジリ文獻。 圖書館ノ物ヲ使フ爲、購入ノ必要ハ無イ。						
参考書	小松 茂美（1968）『かな—その成立と変遷—』（岩波新書・青版679）、岩波書店 樺島 忠夫（1979）『日本の文字—表記体系を考える—』（岩波新書・黄版75）、岩波書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むC						
担当教員	大坪 亮介						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『三人法師』講読						
授業の概要	室町時代の御伽草子『三人法師』を読み進めていく。この作品は、戦乱の世を逃れ高野山に集まった三人の法師（玄松・玄竹・玄梅）が、それぞれ高野山に住み着くに至った経緯を語り合うという物語である。本授業では、『三人法師』原文の丹念な読解を通して、かれらの歩んできた数奇な人生をたどっていく。						
到達目標	大学で専門的に古典作品を読むための基礎を習得する。具体的には、辞書等の文献やデータベース類を適切に活用し、古典作品を古語の意味や文法事項、さらには当時の文化的背景まで押さえた上で読解していく態度を身につける。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 古典文学を読むための基礎 第3回 辞書類の利用法 第4回 データベース類の利用法 第5回 『三人法師』講読①～高野山に集う三人の法師～ 第6回 『三人法師』講読②～玄松遁世の経緯その一～ 第7回 『三人法師』講読③～玄松遁世の経緯その二～ 第8回 『三人法師』講読④～玄松遁世の経緯その三～ 第9回 『三人法師』講読⑤～玄竹遁世の経緯その一～ 第10回 『三人法師』講読⑥～玄竹遁世の経緯その二～ 第11回 『三人法師』講読⑦～玄竹遁世の経緯その三～ 第12回 『三人法師』講読⑧～玄梅遁世の経緯その一～ 第13回 『三人法師』講読⑨～玄梅遁世の経緯その二～ 第14回 『三人法師』講読⑩～玄梅遁世の経緯その三～ 第15回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回必ず予習を行ってこること。						
授業方法	受講生による本文解釈を中心とし、講義も交える。						
評価基準と評価方法	平常点50%、試験50%						
教科書	プリント配付						
参考書	市古貞治校注『御伽草子』（日本古典文学大系、1958年） 五来重『高野聖』（角川ソフィア文庫、2011年） 谷崎潤一郎『聞書抄』（中公文庫、2005年） その他、適宜授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	ことばの調べ方						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語研究の方法論。						
授業の概要	下記到達目標を達成する爲の講義。						
到達目標	言語資料を収集、分析、整理する方法を掴む。 言語資料の読み取り方を掴む。 論理的文章の書き方を掴む。 議論の方法を掴む。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 論文講読 (1): 論旨要約 03: 論文講読 (2): 用語解説 04: 論文講読 (3): 参考文献から知識を広げる 05: 言語資料の収集 (1): 質問票作成 06: 言語資料の収集 (2): データ入力 07: 言語資料の収集 (3): 分析 08: 形態統語的特徴の整理 (1): 形態的特徴 09: 形態統語的特徴の整理 (2): 統語的特徴 10: 形態統語的特徴の整理 (3): 語類認定 11: 形態統語的特徴の整理 (4): 文の階層構造 12: 意味・用法の分類 (1): 格 13: 意味・用法の分類 (2): アスペクト (aspect) とテンス (tense) 14: 意味・用法の分類 (3): 複文 15: 総括						
授業外における学習 (準備学習の内容)	言語資料収集。 発表資料作成。 論文読解。 教員が manaba にアップロードする豫習資料は事前に読んでおくこと。 授業は豫習 (= 事前読書) を前提に進める。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	日々の課題およびその添削: 40点 質疑応答: 20点 學期末報告書: 40点 特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。						
教科書	教員が manaba にアップロードする資料。						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	茶道文化を学ぶ／茶道史						
担当教員	小林 善帆						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の伝統的な文化としての茶の湯						
授業の概要	茶の湯をめぐる日本の文化は、日本文化史において独自の発展を遂げ、今日、日本の伝統文化を代表するものの一つとなっている。中国唐代の喫茶文化の受容から急速に貴族たちの間に広まった平安時代、禅の実践の中で精神性を深めてゆくいっぽう、権力構造の中に取り込まれるようになっていった中世。利休により至高の精神性を獲得するにいたった近世、ジェンダー、アイデンティティという視点から読み解くことができる近現代、というように茶の湯をめぐる文化は、それぞれの時代精神や周辺のさまざまな文化事象と密接な関わりを見せながら、展開してきた。本講義では、日本における茶の湯文化を歴史的に概観するとともに、茶の湯を学び、実際に茶会に参加することから、茶道文化を立体的に学ぶ。						
到達目標	茶道（茶の湯）の歴史と理論を基本的な実技を交え学ぶことから、日本文化の形成と本質を理解し、教養を深め、海外への日本文化紹介を、おこなえるようにする。						
授業計画	第一回 概説 日本文化と茶の湯 第二回 茶の湯と道具 第三回 茶の湯の点前 第四回 茶室と露地 第五回 懐石料理とお菓子 第六回 茶席の作法 第七回 茶会とその作法 第八回 茶の湯と周辺文化 第九回 茶の湯の歴史（一）千利休まで 第十回 茶の湯の歴史（二）千利休以後、近世 第十一回 茶の湯の歴史（三）近代 第十二回 茶の湯の歴史（四）現代 第十三回 茶の湯と女学校 第十四回 茶の湯と植民地 第十五回 まとめ 質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で興味を持ったことを図書館で調べる。茶の湯関係の美術館に行く。お茶会に参加してみる。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート50%、平常点（小テスト含む）50%						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	『「花」の成立と展開』小林善帆 和泉書院 2007年 ISBN978-4-7576-0441-4 『日本の近代化とプロテスタンティズム』上村敏文・笠谷和比古編 教文館 2013年 ISBN978-4-7642-7363-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域方言調査の企画・立案・実施						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。前期は、方言調査の実施にあたって、ことばの調査に関する企画・立案のしかたを学ぶ。夏休み中に、方言調査を実施する。調査研究を通して、人間同士の円滑なコミュニケーションとは何か、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションとは何かについてもいっしょに考えてみたい。						
到達目標	方言調査の全体像を把握し、実践できるようになる。						
授業計画	第1回 方言を調査すること 第2回 先行調査・研究の検討① 方言概説—音声・音韻— 第3回 先行調査・研究の検討② 方言概説—アクセント— 第4回 先行調査・研究の検討③ 方言概説—語彙・文法・表現法— 第5回 先行調査・研究の検討④ 前回の調査結果の検討—アクセント— 第6回 先行調査・研究の検討⑤ 前回の調査結果の検討—活用— 第7回 先行調査・研究の検討⑥ 前回の調査結果の検討—待遇表現— 第8回 調査の準備・調査票の作成① 調査項目の設定 第9回 調査の準備・調査票の作成② 質問方法の選定 第10回 調査の準備・調査票の作成③ 質問内容の選定 第11回 模擬調査 第12回 調査票の改良 第13回 調査票の説明（前半グループ） 第14回 調査票の説明（後半グループ） 第15回 夏休み調査に向けて ※ 8月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。						
授業外における学習（準備学習の内容）	特に調査票の作成など、授業外での準備が大切となるため、念入りに作成すること。						
授業方法	講義、及び演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート40%						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習B						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	方言調査結果の集計と分析						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。後期は、夏休みに実施する方言調査結果の集計と分析の方法について、体系的に学ぶ。						
到達目標	調査した結果から、データの整理と分析を経て、発表できるようになる。						
授業計画	※ 8月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。 第1回 調査票の回収 第2回 調査結果の管理方法 第3回 表計算ソフトでの集計方法 第4回 データ入力 第5回 入力データの見直し 第6回 調査結果の分析方法 第7回 各グループの分析方法の検討・確認 第8回 データ分析 第9回 データ分析（前回の続き） 第10回 発表内容と方法の検討 第11回 中間発表 第12回 発表内容と方法の見直し 第13回 最終発表（前半グループ） 第14回 最終発表（後半グループ） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	結果発表に際しては準備が必要となる。念入りに準備すること。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%と最終発表・レポート40%						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道講義						
担当教員	丸山 果織						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	書に関する総合的な知識を習得する。						
授業の概要	書に関わる基本的な事項を学習し、習得する。 長い歴史の中で、書がどのように考えられ、どのように鑑賞されてきたのかを学習する。						
到達目標	書を総合的に理解できる。 書について自分自身の言葉で論じることができる。						
授業計画	1) ガイダンス（授業内容や課題などの説明）、書に関わる諸分野について 2) 書とは何か（書写と書道、作品について） 3) 書道史について（中国と日本の書の歴史） 4) 書はどのように考えられてきたのか①—中国の書論について 5) 書はどのように考えられてきたのか②—中国の書論を読む 6) 書はどのように考えられてきたのか③—日本の書論について 7) 書はどのように考えられてきたのか④—日本の書論を読む（明治期以前） 8) 書はどのように考えられてきたのか⑤—日本の書論を読む（明治期以後） 9) 書の美について（書の美学、美的価値） 10) 作品の鑑賞と制作について 11) 文房四宝について 12) 表具について 13) 書と教育について 14) 書と他分野との関わりについて（文学、美術、工芸） 15) まとめ、質疑応答、確認テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行う。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点20% テスト40% レポート40%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（仮名A）						
担当教員	丸山 果織						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技〈仮名―基礎編〉						
授業の概要	仮名は、中国から漢字を受容し、日本独自の美意識のもと展開された。 仮名の変遷を理解し、主に平安時代の仮名について学習する。 単体から連綿、仮名の書き方の基本を学びながら、日本の美について考える。						
到達目標	仮名の成立について理解し、説明することができる。 仮名の書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、仮名の変遷と仮名の書について 2) 仮名の基本練習―単体で書く 1…仮名の字源について、仮名の用筆 3) 2…「いろは」練習 4) 3…「いろは」清書 5) 仮名の基本練習―連綿で書く 1…連綿の種類について、連綿の練習 6) 2…連綿の清書 7) 仮名の基本練習―変体仮名を書く 1…変体仮名の字源について、変体仮名の練習 8) 2…変体仮名の練習と清書 9) 仮名の古典作品（古筆）について、古筆の臨書―「高野切古今和歌集」練習 10) 古筆の臨書―「高野切古今和歌集」清書 11) 古筆の臨書―「三色紙」練習 12) 古筆の臨書―「三色紙」清書 13) 仮名作品の創作①―構図と墨量を考える 14) 仮名作品の創作②―料紙に清書 15) 仮名作品の創作③―作品に合う印の制作と押印						
授業外における学習（準備学習の内容）	実技添削物の復讐 紹介した展覧会の鑑賞						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	毎時の提出作品、授業への取り組み姿勢 提出作品50% 課題・小テスト30% 平常点20%						
教科書	手本やプリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（仮名B）						
担当教員	丸山 果織						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技〈仮名―応用編〉						
授業の概要	書道実技（仮名A）基礎の応用として、様々な書式を試みる。 俳句、和歌の散らし書き構成法を学び、短冊、色紙、扇面などへの創作に挑戦する。 創作の際、参考にする古典作品（古筆）を各自が選び、研究する。						
到達目標	俳句、和歌などの散らし書きを学び、創作につなぐことができる。 色紙、短冊、扇面などの様々な書式を知り、創作することができる。						
授業計画	1) 古筆の鑑賞―学ぶ古筆を選ぶ 2) 古筆の臨書―練習 3) 古筆の臨書―清書 4) 短冊に書く①―集字について 5) 短冊に書く②―短冊の書式について 6) 短冊に書く③―墨量と濃淡について 7) 色紙に書く①―散らし書きについて（構図を考える） 8) 色紙に書く②―散らし書きについて（墨量を考える） 9) 扇面に書く①―扇面と散らし書きについて（構図を考える） 10) 扇面に書く②―扇面と散らし書きについて（墨量を考える） 11) 中字仮名を書く①（構図を考える） 12) 中字仮名を書く②（墨量を考える） 13) 中字仮名を書く③（清書）、大字仮名を書く①（構図を考える） 14) 大字仮名を書く②（墨量を考える） 15) 大字仮名を書く③（清書）						
授業外における学習（準備学習の内容）	実技添削物の復讐 紹介した展覧会の鑑賞						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	毎時の提出作品、授業への取り組み姿勢 提出作品50% 課題・小発表30% 平常点20%						
教科書	各自が選ぶ古筆の法帖。詳しくは最初の授業で説明する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（行書）						
担当教員	西山 恵里香						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	行書の基本用筆を理解・習得した上で、行書の古典作品を臨書し、創作につなげる。						
授業の概要	行書の特徴を学習し、それを基に行書の用筆法を習得する。 行書の代表的な古典を臨書することにより、用筆法だけではなく、古典の歴史的背景も学ぶ。 学習した行書の用筆法をいかし、半切の創作を行う。						
到達目標	行書の基本的な知識と技法を習得する。 行書の代表的な古典に触れ、用筆法および歴史的背景を理解することができる。						
授業計画	1、ガイダンス 硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） 2、毛筆による行書の基礎を習得する①～点画の曲線化、連続、変化、省略について～ 3、毛筆による行書の基礎を習得する②～筆順の変化、外形の変化について～ 4、王羲之『蘭亭序』について①～歴史的背景の理解～ 5、王羲之『蘭亭序』について②～『蘭亭序』の字の結構を学ぶ～ 四文字臨書 6、王羲之『蘭亭序』について③～『蘭亭序』の字の結構を学ぶ～ 六文字臨書 7、王羲之『蘭亭序』について④～『蘭亭序』の字のリズムを学ぶ～ 四文字臨書 8、王羲之『蘭亭序』について⑤～『蘭亭序』の字のリズムを学ぶ～ 六文字臨書 9、王羲之『蘭亭序』について⑥～半切作品のまとめ方～ 10、日本の行書作品について①～空海『風信帖』を学ぶ～ 四文字臨書 11、日本の行書作品について②～空海『風信帖』を学ぶ～ 六文字臨書 12、近現代の中国の作品について～傅山の作品を学ぶ～ 13、創作① 創作について 14、創作② 作品の変化について（墨の濃淡、字の大小等） 15、創作③ 半切作品の清書						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、次回授業ですることにより目を通しておく。 授業後：授業内に出来なかった課題や技法を次回授業までに出来るようにしておく。						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	平常点20%、作品50%、レポート・小テスト30%						
教科書	蘭亭叙〈五種〉[東晋・王羲之／行書]二玄社						
参考書	必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	丸山 果織						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	文字を正しく丁寧に用途に応じて書けるよう、そのポイントを習得する。 また、それに必要な集中力を身につける。 今一度自分の文字を見直すことにより、より良い字が書けるよう意識する。						
授業の概要	楷書と行書の書き方を習得し、縦書き、横書きの書き方を学習する。 さらに、実用としてのはがき、手紙、掲示文の書き方も学習する。 正しく丁寧に書けるようになるとともに、漢字の基本事項として常用漢字の筆順や部首名の確認も行う。						
到達目標	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書ける。 漢字の基本事項を理解し、草書体や旧字体、書写体も読める。						
授業計画	1) ガイダンス、漢字の基本事項、基本点画について 2) 楷書体について 3) 行書体について 4) 楷書体と行書体を書き分ける 5) 平仮名と片仮名について 6) 縦書きと横書きについて 7) はがき、手紙の書き方について 8) 掲示文の書き方について 9) 質疑応答と実技及び基本事項に関するテスト 10) 筆ペンによる実用書—基本用筆について、名前を書く 11) 筆ペンによる実用書—熨斗書について 12) 筆ペンによる実用書—暑中見舞い、年賀状を書く 13) 手紙を書く—手紙文の書き方①（草稿） 14) 手紙を書く—手紙文の書き方②（清書） 15) 手紙を書く—筆ペンで宛名を書く、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	実技と理論の予習と復讐						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点20% 課題30% テスト50%						
教科書	『硬筆書写検定・3級合格のポイント』日本習字普及協会、1200円＋税 適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	丸山 果織						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	文字を正しく丁寧に用途に応じて書けるよう、そのポイントを習得する。 また、それに必要な集中力を身につける。 今一度自分の文字を見直すことにより、より良い字が書けるよう意識する。						
授業の概要	楷書と行書の書き方を習得し、縦書き、横書きの書き方を学習する。 さらに、実用としてのはがき、手紙、掲示文の書き方も学習する。 正しく丁寧に書けるようになるとともに、漢字の基本事項として常用漢字の筆順や部首名の確認も行う。						
到達目標	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書ける。 漢字の基本事項を理解し、草書体や旧字体、書写体も読める。						
授業計画	1) ガイダンス、漢字の基本事項、基本点画について 2) 楷書体について 3) 行書体について 4) 楷書体と行書体を書き分ける 5) 平仮名と片仮名について 6) 縦書きと横書きについて 7) はがき、手紙の書き方について 8) 掲示文の書き方について 9) 質疑応答と実技及び基本事項に関するテスト 10) 筆ペンによる実用書—基本用筆について、名前を書く 11) 筆ペンによる実用書—熨斗書について 12) 筆ペンによる実用書—暑中見舞い、年賀状を書く 13) 手紙を書く—手紙文の書き方①（草稿） 14) 手紙を書く—手紙文の書き方②（清書） 15) 手紙を書く—筆ペンで宛名を書く、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	実技と理論の予習と復讐						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点20% 課題30% テスト50%						
教科書	『硬筆書写検定・3級合格のポイント』日本習字普及協会、1200円＋税 適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（作品制作）						
担当教員	丸山 果織						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	自由制作。これまでの学習、経験をふまえて書作品を制作する。						
授業の概要	古典学習を踏まえた、基本的な書作品の制作を行う。その中で、各自が表現したいことを大切することは忘れない。制作手順を習得し、自らの作品を制作する。段階に応じ、個人に対して必要な助言・指導を行い、作品の完成へ導く。						
到達目標	自らの着想にもとづき、意図、書く内容、書体、書風、形式を明確にして制作を進めることができる。						
授業計画	1) 作品制作とは何か 2) 古典学習から制作へ（制作ノートを作成） 3) 参考古典の臨書と研究①（古典作品について、道具の選択） 4) 参考古典の臨書と研究②（形式・造形） 5) 参考古典の臨書と研究③（墨量・濃淡） 6) 作品制作A（集字・草稿） 7) 作品制作A（助言・指導） 8) 作品制作A（展開） 9) 作品制作A（検討・修正） 10) 作品A発表、助言・指導 11) 作品制作B（集字・草稿） 12) 作品制作B（助言・指導） 13) 作品制作B（展開） 14) 作品制作B（検討・修正） 15) 作品B発表、助言・指導、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも積極的に取り組むことを望む。 紹介する書道展など積極的に鑑賞へ行くことを望む。						
授業方法	実技、指導解説						
評価基準と評価方法	平常点30% 制作ノート20% 作品50%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（草書）						
担当教員	花田 尊文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書法基礎（草書）。						
授業の概要	草書の基礎的書法の習得と理解を目指し、「書譜」の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて学習する。草書の字形は簡略ではあるが判読が難しい。この理由と事情について、その発生と成立の過程を解説する。これを踏まえた上で字形認識力の向上を目指す。一方、書法習得については草書書法に多用される代表的な筆遣いのトレーニングから入る。次に、速書について理解をはかり実践する。草書体は漢字仮名交じりの日本語表記の上でその速記性と美的調和において優れており日常筆記や手紙を書く場合大変有益な書体である。臨書演習を通して、書法習得とともに、速書と字形認識が表裏一体のものであることを理解し習熟へ導く。更に、半紙臨書を踏まえて半切臨書にも取り組む。						
到達目標	草書書法基礎（旋回、ジグザグ、振子、当り運動。単体、連綿草）。 草書体字形認識力の向上。 書譜の条幅臨書作品。 以上が、できるようになる。						
授業計画	第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布とその説明、関連参考文献の紹介、演習に必要な用具材についての確認と予告。書法基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆）について解説。 第2回：草書とは何か？ その発生と成立の過程について解説。臨書について解説。 第3回：書譜について解説。 運筆トレーニング後、「書譜」の臨書演習（半紙）に入る。 第4回：「書譜」臨書演習（一回目、テキストP2～）。 第5回：「書譜」臨書演習（二回目、テキストP10～）。 第6回：VTRによりこれまでの総括と今後への展望。草書の字形を覚える必要性について再確認。「書譜」臨書演習（三回目、テキストP20～）。 第7回：草書字形一覧表配布（合理的に字形を覚える方法）解説。 第8回：「書譜」臨書演習（四回目、テキストP30～）。 第9回：「書譜」臨書演習（五回目、テキストP40～）。 第10回：「書譜」臨書演習（六回目、テキストP50～）。 第11回：「書譜」臨書演習（七回目、清書提出）。同条幅臨書について予告。 第12回：「書譜」条幅臨書演習（一回目、まず書いてみる）。 第13回：「書譜」条幅臨書演習（二回目、一字々々の特徴を詳細に検討する）。 第14回：「書譜」条幅臨書演習（三回目、文字の大小、字間行間にも注意する）。 第15回：「書譜」条幅臨書演習（四回目、全体の気脈を通す。清書提出）。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に臨書に取り組むことを希望する。						
授業方法	臨書演習中心。講義、解説も織りまぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	書名/書譜(中国法書選No. 38) 著訳編註名/孫過庭 出版社/二玄社ISBN/4544005388 必要に応じプリントを配布する。						
参考書	書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社ISBN/4544014336						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	花田 尊文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）。						
授業の概要	書写、書道についての一般的総合的な基本的教養について解説する。書写、書道教育においても日常生活においても正書体である楷書の重要性は論を待たない。これに鑑み楷書古典名跡の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて楷書書法の習得をめざして学習する。 毛筆の扱いに慣れるのが第一段階である。その為に執筆法、腕法、姿勢などの解説を理解した上で実践する。簡単な字例から次第に難易度を上げ習熟に導く。楷書書法の最要点である三過折の習得、字形の観察力と書美の鑑賞力の向上を目指して臨書に取り組む。 まず、半紙で2字、4字、6字書と書く字数を増やししながら単に一字一字に注目するだけではなく章法にも配慮するよう指導する。						
到達目標	書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について理解と習得。 楷書書法の基本技法の習得。筆遣いの要点、字形のとり方、章法（文字の大きさ、配字、配列など）について理解習得。 楷書の書美の理解と表現。以上ができるようになる。						
授業計画	第1回：演習に必要な用具用材についての確認と書写、書道のための参考文献の紹介。書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について略説。 第2回：書写の基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆、三過折、刀法、字形のまとめ方）について解説。 第3回：書写演習（簡単な字例から）。 第4回：書写演習（前回の続き）、清書提出。 第5回：楷書の歴史と楷書古典名跡（「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」など）について解説。 第6回：臨書演習（主として唐楷 半紙2字書）。 第7回：臨書演習（半紙2、4字書）。 第8回：臨書演習（半紙4、6字書）。 第9回：臨書演習（半紙6字書）。VTRによりこれまでの総括と再確認。 第10回：臨書演習（「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」）、清書提出。 第11回：臨書演習（主として北碑「張猛龍碑」など）。 第12回：臨書演習（「張猛龍碑」「高貞碑」）。 第13回：臨書演習（「高貞碑」）。 第14回：臨書演習（「張猛龍碑」「高貞碑」）、清書提出。 第15回：書の定義、書道教育、書の鑑賞について講義。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に臨書に取り組むことを希望する。						
授業方法	実技演習中心、講義解説も織りまぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	書名/九成宮醴泉銘(中国法書選No. 31) 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4544005310 書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336 必要に応じプリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書B						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「書法の基礎と楷書A」を受け多様な楷書の書美と書法を学習。条幅作品。						
授業の概要	「書法の基礎と楷書A」で未習の楷書古典の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて学習する。次に、半紙書きの経験を元に条幅（半切）書きに取り組む。楷書による半切臨書作品の完成を目指す。						
到達目標	臨書の意義と効用について理解。 楷書の書美、その諸相（時代的様式、作者の個性）について理解、書法についても習得。 小楷演習（三過折、字形、章法）。 条幅作品揮毫。以上が、できるようになる。						
授業計画	第1回：「書法の基礎と楷書A」で未習の唐代の楷書古典（褚遂良、顔真卿など）について略説。臨書演習に入る。 第2回：臨書演習（褚遂良）。 第3回：臨書演習（顔真卿）。 第4回：臨書演習（褚遂良、顔真卿）、清書提出。 第5回：楷書の特徴別の種類について解説。更に未習の古典について臨書演習（魏晉小楷、鍾繇・王羲之樂毅論）。 第6回：臨書演習（鍾繇）。 第7回：臨書演習（樂毅論）。 第8回：臨書演習（鍾繇、樂毅論）、清書提出。 第9回：楷書書法の応用と展開。小楷演習（美人董氏墓誌）、まず書いてみる。 第10回：臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。 第11回：臨書演習（文字の大きさ、字間行間に注意する）、清書提出。条幅臨書について予告、解説。 第12回：条幅臨書演習（手本配布）、まず書いてみる。 第13回：条幅臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。 第14回：条幅臨書演習（文字の大きさ、字間行間にも注意する）。 第15回：条幅臨書演習（止め、ハネ、払い、線の太細など細部の表現にも配慮する）、清書提出。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に臨書に取り組むことを希望する。						
授業方法	実技演習中心、講義解説も織りまぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336 書名/九成宮醴泉銘(中国法書選No. 31) 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4544005310 必要に応じプリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書B						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「書法の基礎と楷書A」を受け多様な楷書の書美と書法を学習。条幅作品。						
授業の概要	「書法の基礎と楷書A」で未習の楷書古典の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて学習する。次に、半紙書きの経験を元に条幅（半切）書きに取り組む。楷書による半切臨書作品の完成を目指す。						
到達目標	臨書の意義と効用について理解。 楷書の書美、その諸相（時代的様式、作者の個性）について理解、書法についても習得。 小楷演習（三過折、字形、章法）。 条幅作品揮毫。以上が、できるようになる。						
授業計画	第1回：「書法の基礎と楷書A」で未習の唐代の楷書古典（褚遂良、顔真卿など）について略説。臨書演習に入る。 第2回：臨書演習（褚遂良）。 第3回：臨書演習（顔真卿）。 第4回：臨書演習（褚遂良、顔真卿）、清書提出。 第5回：楷書の特徴別の種類について解説。更に未習の古典について臨書演習（魏晉小楷、鍾繇・王羲之樂毅論）。 第6回：臨書演習（鍾繇）。 第7回：臨書演習（樂毅論）。 第8回：臨書演習（鍾繇、樂毅論）、清書提出。 第9回：楷書書法の応用と展開。小楷演習（美人董氏墓誌）、まず書いてみる。 第10回：臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。 第11回：臨書演習（文字の大きさ、字間行間に注意する）、清書提出。条幅臨書について予告、解説。 第12回：条幅臨書演習（手本配布）、まず書いてみる。 第13回：条幅臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。 第14回：条幅臨書演習（文字の大きさ、字間行間にも注意する）。 第15回：条幅臨書演習（止め、ハネ、払い、線の太細など細部の表現にも配慮する）、清書提出。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に臨書に取り組むことを希望する。						
授業方法	実技演習中心、講義解説も織りまぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336 書名/九成宮醴泉銘(中国法書選No. 31) 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4544005310 必要に応じプリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	青木 稔弥						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	日本近代の文化、文学の諸問題						
授業の概要	日本近代の文化、文学について、大学生活の総決算としての卒業論文を執筆する手助けをする。卒業論文のテーマを教員の方から指示することはしないので、各自の関心、問題意識に応じて、それにふさわしい研究方法とその研究論文のありようを探究してもらうことになる。その補助として、適宜、最新の評論、研究論文の数々を教示することになるだろう。本当の意味での素晴らしい研究をなすためには、所謂「文学的常識」にまどわされることのない柔軟な発想と、細部に神経が行き届いた、総合的な面を忘れない物の見方が必要なことは言うまでもない。関連の様々な研究論文を実際に読み解くことを通して、本当の意味での学力を身につけ、立派な卒業論文を完成してもらいたい。						
到達目標	立派な卒業論文を完成させること						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 論文テーマの模索 1 第3回 論文テーマの模索 2 第4回 論文テーマの模索 3 第5回 論文テーマの模索 4 第6回 論文テーマの模索 5 第7回 論文テーマの模索 6 第8回 複数の論文テーマ選定 1 第9回 複数の論文テーマ選定 2 第10回 資料収集 1 第11回 資料収集 2 第12回 資料収集 3 第13回 資料収集 4 第14回 夏休みに向けて 1 第15回 夏休みに向けて 2 第16回 論文読み込み 1 第17回 論文読み込み 2 第18回 論文読み込み 3 第19回 論文テーマ決定 第20回 報告会 1 第21回 報告会 2 第22回 報告会 3 第23回 報告会 4 第24回 報告会 5 第25回 報告会 6 第26回 報告会 7 第27回 報告会 8 第28回 反省会 第29回 卒論試問 1 第30回 卒論試問 2						
授業外における学習（準備学習の内容）	幅広い知見を得るべく努力すること						
授業方法	主として個人指導						
評価基準と評価方法	卒業論文と卒論試問						
教科書	適宜、個別に、必要な本を指示。						

参考書	適宜、個別に、必要な本を指示。
-----	-----------------

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	池谷 知子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を書く						
授業の概要	日本語教育に関係するテーマで卒業論文を書くことを目指します。「敬語について」「子供の言語習得について」のような漠然としたテーマはできるだけ早い段階で興味の焦点を絞っておくことが大切です。まず、採取した用例をどのような視点、枠組みで分析するのかなど、論文を書くため技法を身につけながら、各自の卒業論文のテーマについて発表を行います。個別の指導はそれぞれ時間をとって行います。 ＜日本語教育に関係するテーマ＞ ・日本語教育教材研究 ・日本語の文法や語彙についての分析 ・日本語の誤用分析 ・話し言葉の機能分析（敬語・謝罪・褒めetc） ・非言語行動について（ボディランゲージetc） ・年少者のための日本語教育 ・日本語学習者の観察やケーススタディ						
到達目標	各自、テーマを見つけて卒業論文を書きあげることができる。						
授業計画	＜前期＞ 第1回 卒業研究とは 第2回 各自のテーマについての発表と質疑応答 1 第3回 各自のテーマについての発表と質疑応答 2 第4回 各自のテーマについての発表と質疑応答 3 第5回 参考文献の検索方法 第6回 データ収集の方法 第7回 データの分析 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて個別指導 1 第10回 各自のテーマについて個別指導 2 第11回 各自のテーマについて個別指導 3 第12回 各自のテーマについて個別指導 4 第13回 各自のテーマについて個別指導 5 第14回 各自のテーマについて個別指導 6 第15回 前期のまとめ ＜後期＞ 第16回 各自のテーマについての発表と質疑応答 1 第17回 各自のテーマについての発表と質疑応答 2 第18回 各自のテーマについての発表と質疑応答 3 第19回 各自のテーマについての発表と質疑応答 4 第20回 各自のテーマについての発表と質疑応答 5 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答 6 第22回 各自のテーマについて個別指導 1 第23回 各自のテーマについて個別指導 2 第24回 各自のテーマについて個別指導 3 第25回 各自のテーマについて個別指導 4 第26回 各自のテーマについて個別指導 5 第27回 各自のテーマについて個別指導 6 第28回 卒業論文発表会 第29回 卒業論文発表会 第30回 論述口頭試問						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分のテーマについて、参考文献や論文を積極的に探してください。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする						
評価基準と評価方法	卒業論文70% 口頭試問30%						

教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	田附 敏尚						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を書く						
授業の概要	日本語学、方言学、社会言語学に関する研究をテーマとして卒業論文を執筆する学生に対し、その方法や手段についての助言をし、指導を行う。 研究と名がつくからには、どんな小さなことでも「何か新しいもの」を見つけてほしい。その過程で情報を収集し、分析する能力も養われるはずである。						
到達目標	各自のテーマに沿って卒業論文を書き上げる。						
授業計画	(前期) 第1回 卒業論文とは 第2回 各自の研究テーマの発表と検討① 第3回 各自の研究テーマの発表と検討② 第4回 各自の研究テーマの発表と検討③ 第5回 先行研究の調べ方 第6回 データ収集の方法 第7回 テーマ決定 第8回 研究計画の提出と検討 第9回 各自のテーマについての個別指導① 第10回 各自のテーマについての個別指導② 第11回 各自のテーマについての個別指導③ 第12回 各自のテーマについての個別指導④ 第13回 各自のテーマについての個別指導⑤ 第14回 各自のテーマについての個別指導⑥ 第15回 夏期休暇中の作業計画の提出と検討 (後期) 第16回 夏期休暇中の作業進捗状況の報告 第17回 研究報告とそれに対する指導 第18回 中間発表会①（論文題目・目次の報告含む） 第19回 中間発表会② 第20回 中間発表会に対する指導 第21回 各自のテーマについての個別指導① 第22回 各自のテーマについての個別指導② 第23回 各自のテーマについての個別指導③ 第24回 各自のテーマについての個別指導④ 第25回 各自のテーマについての個別指導⑤ 第26回 各自のテーマについての個別指導⑥ 第27回 論文提出要領の確認・口頭試問日程決定 第28回 提出直前相談 第29回 卒論発表会① 第30回 卒論発表会②						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の興味・関心に従いテーマを決めることになるが、それが卒業研究として成り立つのかを見極めることも必要になってくるため、出来るだけ早くテーマ候補を探しておくことが肝要である。 テーマが決まってからは、調査・分析はもちろんのこと、先行研究もよく読み込んでほしい。						
授業方法	研究の進捗状況についての報告と指導						
評価基準と評価方法	論文審査（口頭試問を含む）100%						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	田附 敏尚						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を書く						
授業の概要	日本語学、方言学、社会言語学に関する研究をテーマとして卒業論文を執筆する学生に対し、その方法や手段についての助言をし、指導を行う。 研究と名がつくからには、どんな小さなことでも「何か新しいもの」を見つけてほしい。その過程で情報を収集し、分析する能力も養われるはずである。						
到達目標	各自のテーマに沿って卒業論文を書き上げる。						
授業計画	(前期) 第1回 卒業論文とは 第2回 各自の研究テーマの発表と検討① 第3回 各自の研究テーマの発表と検討② 第4回 各自の研究テーマの発表と検討③ 第5回 先行研究の調べ方 第6回 データ収集の方法 第7回 テーマ決定 第8回 研究計画の提出と検討 第9回 各自のテーマについての個別指導① 第10回 各自のテーマについての個別指導② 第11回 各自のテーマについての個別指導③ 第12回 各自のテーマについての個別指導④ 第13回 各自のテーマについての個別指導⑤ 第14回 各自のテーマについての個別指導⑥ 第15回 夏期休暇中の作業計画の提出と検討 (後期) 第16回 夏期休暇中の作業進捗状況の報告 第17回 研究報告とそれに対する指導 第18回 中間発表会①(論文題目・目次の報告含む) 第19回 中間発表会② 第20回 中間発表会に対する指導 第21回 各自のテーマについての個別指導① 第22回 各自のテーマについての個別指導② 第23回 各自のテーマについての個別指導③ 第24回 各自のテーマについての個別指導④ 第25回 各自のテーマについての個別指導⑤ 第26回 各自のテーマについての個別指導⑥ 第27回 論文提出要領の確認・口頭試問日程決定 第28回 提出直前相談 第29回 卒論発表会① 第30回 卒論発表会②						
授業外における学習(準備学習の内容)	自分の興味・関心に従いテーマを決めることになるが、それが卒業研究として成り立つのかを見極めることも必要になってくるため、出来るだけ早くテーマ候補を探しておくことが肝要である。 テーマが決まってからは、調査・分析はもちろんのこと、先行研究もよく読み込んでほしい。						
授業方法	研究の進捗状況についての報告と指導						
評価基準と評価方法	論文審査(口頭試問を含む)100%						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	田附 敏尚						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を書く						
授業の概要	日本語学、方言学、社会言語学に関する研究をテーマとして卒業論文を執筆する学生に対し、その方法や手段についての助言をし、指導を行う。 研究と名がつくからには、どんな小さなことでも「何か新しいもの」を見つけてほしい。その過程で情報を収集し、分析する能力も養われるはずである。						
到達目標	各自のテーマに沿って卒業論文を書き上げる。						
授業計画	(前期) 第1回 卒業論文とは 第2回 各自の研究テーマの発表と検討① 第3回 各自の研究テーマの発表と検討② 第4回 各自の研究テーマの発表と検討③ 第5回 先行研究の調べ方 第6回 データ収集の方法 第7回 テーマ決定 第8回 研究計画の提出と検討 第9回 各自のテーマについての個別指導① 第10回 各自のテーマについての個別指導② 第11回 各自のテーマについての個別指導③ 第12回 各自のテーマについての個別指導④ 第13回 各自のテーマについての個別指導⑤ 第14回 各自のテーマについての個別指導⑥ 第15回 夏期休暇中の作業計画の提出と検討 (後期) 第16回 夏期休暇中の作業進捗状況の報告 第17回 研究報告とそれに対する指導 第18回 中間発表会①(論文題目・目次の報告含む) 第19回 中間発表会② 第20回 中間発表会に対する指導 第21回 各自のテーマについての個別指導① 第22回 各自のテーマについての個別指導② 第23回 各自のテーマについての個別指導③ 第24回 各自のテーマについての個別指導④ 第25回 各自のテーマについての個別指導⑤ 第26回 各自のテーマについての個別指導⑥ 第27回 論文提出要領の確認・口頭試問日程決定 第28回 提出直前相談 第29回 卒論発表会① 第30回 卒論発表会②						
授業外における学習(準備学習の内容)	自分の興味・関心に従いテーマを決めることになるが、それが卒業研究として成り立つのかを見極めることも必要になってくるため、出来るだけ早くテーマ候補を探しておくことが肝要である。 テーマが決まってからは、調査・分析はもちろんのこと、先行研究もよく読み込んでほしい。						
授業方法	研究の進捗状況についての報告と指導						
評価基準と評価方法	論文審査(口頭試問を含む)100%						
教科書							

参考書	
-----	--

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	田中 まき						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	古典文学および日本文化の研究						
授業の概要	和歌や物語などの古典文学や日本文化を対象に卒業論文を執筆しようとする学生に対して、助言、指導をおこなう。 参考文献や資料などについて具体的にアドバイスするが、自分自身でも関係する論文や資料を探索し、それらを読んで積極的に調査・研究を進める姿勢を持って、論文を完成する。						
到達目標	古典文学や日本文化を対象に研究、考察し、その成果を卒業論文にまとめることができる。						
授業計画	前期 第1回 卒業研究についての概説 第2回 予定している研究テーマについての発表 第3回 研究テーマについての検討① 第4回 研究テーマについての検討② 第5回 研究テーマに関する書籍、関係論文の探索 第6回 研究テーマに関する書籍、関係論文のまとめと評価① 第7回 研究テーマに関する書籍、関係論文のまとめと評価② 第8回 研究の進捗状況の報告① 第9回 研究の進捗状況の報告② 第10回 研究報告とそれに対する指導① 第11回 研究報告とそれに対する指導② 第12回 論文の書き方の指導① 第13回 論文の書き方の指導② 第14回 進捗状況の報告 第15回 夏休みの課題の申告 後期 第1回 夏休み期間の進捗状況の報告 第2回 研究報告とそれに対する指導 第3回 論文の題目・目次（構成）の報告 第4回 卒業論文の中間発表会① 第5回 卒業論文の中間発表会② 第6回 中間発表会に対する指導 第7回 研究の方向性の確認 第8回 研究報告とそれに対する指導 第9回 進捗状況の報告発表 第10回 論文の題目・目次（構成）の確認 第11回 研究報告とそれに対する指導 第12回 研究のまとめ① 第13回 研究のまとめ② 第14回 口頭試問 第15回 卒業論文の成果報告会						
授業外における学習（準備学習の内容）	テーマ周辺の論文を読み、各自のテーマについての調査、研究を進める。						
授業方法	研究の進捗状況についての報告と討論 研究内容や進め方についてのアドバイスや指導						
評価基準と評価方法	研究成果をまとめた論文（口頭試問を含む） 90% 卒業研究に対する取り組みや成果報告の口頭発表 10%						
教科書	特になし。						

参考書	授業中に提示する。
-----	-----------

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	丸山 果織						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	日本の造形芸術についての研究						
授業の概要	書、絵画、工芸など日本の造形芸術を中心とした卒業論文を執筆する学生に対して、助言、指導を行う。						
到達目標	日本の造形芸術を対象に、自分自身で研究、考察し、その成果を卒業論文としてまとめる。						
授業計画	前期 1) 卒業研究について 2) 予定している研究テーマについての発表 3) 研究テーマについての検討① 4) 研究テーマについての検討② 5) 研究テーマに関する先行研究 6) 研究テーマに関する書籍、資料の探索 7) 研究テーマに関する書籍、資料のまとめ・評価① 8) 研究テーマに関する書籍、資料のまとめ・評価② 9) 研究報告・指導① 10) 研究報告・指導② 11) 論文の書き方について① 12) 論文の書き方について② 13) 論文の導入（「はじめに」）発表・指導① 14) 論文の導入（「はじめに」）発表・指導② 15) 夏期休暇の課題発表 後期 1) 研究報告・質疑応答・指導① 2) 研究報告・質疑応答・指導② 3) 論文の題目・目次（構成）の報告・指導 4) 中間発表・指導① 5) 中間発表・指導② 6) 中間発表・指導③ 7) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認① 8) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認② 9) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認③ 10) 文章表現、記述に関する確認 11) 参考文献の表記、引用に関する確認 12) 研究報告・質疑応答① 13) 研究報告・質疑応答② 14) 研究報告・質疑応答③ 15) 卒業論文の成果報告						
授業外における学習（準備学習の内容）	提示された資料は必ず調査し、そこから新たな資料を探索することを望む。						
授業方法	講義、発表、個別指導						
評価基準と評価方法	論文審査と口頭試問（100%）						
教科書							

参考書	個別に提示する
-----	---------

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	正しいことばづかい						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「正しいことばづかい」を知り、「正しいことばづかい」について考える						
授業の概要	敬語や日本語の運用上の「正しさ」について講義する。受講生には適切な言語運用能力も養ってほしいが、その奥にあるルールを知ってほしい。さらに、最終的にはそもそも「正しいことばづかい」とは何なのかを考えたい。						
到達目標	・日本語の敬語のしくみと運用について規範に則った適切な使用ができるようになる。 ・日本語の適切な言語運用に関する知識を身につけることによって、正誤判断とその理由説明ができるようになる。 ・「正しいことばづかい」についての自分の考えを述べられるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス／敬語の種類とはたらき① 素材敬語と対者敬語 第2回 敬語の種類とはたらき② 尊敬語・謙譲語（謙譲語Ⅰ） 第3回 敬語の種類とはたらき③ 丁寧語（謙譲語Ⅱ）・丁寧語 第4回 敬語の種類とはたらき④ 美化語、二重敬語 第5回 間違いやすい敬語 第6回 「丁寧に話す」とは 第7回 復習と中間テスト 第8回 ことばの乱れ？ ① 「ら抜きことば」など 第9回 ことばの乱れ？ ② 「とびはね音調」など 第10回 文法とことばの正しさ 第11回 方言・位相とことばの正しさ 第12回 漢字表記と送り仮名 第13回 振り仮名 第14回 「正しいことばづかい」とは 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	前回の講義内容をふまえた上で講義を進めることになるため、復習を怠らないこと。また、敬語を含めことばの問題を身近な例で確認することに努めてほしい。 授業内で小テストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価20%、小テスト20%、中間試験30%、期末試験30%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論A						
担当教員	辻野 理花						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会と多文化共存						
授業の概要	比較文化にはさまざまな視点から考えていくことができるが、本講義では私たちの足元に存在する多様な文化について着目し、考察していく予定である。文化の多様性というのは、複数の社会の比較という方法を通してだけでなく、1つの社会の中にも存在する。そこで私たちが暮らす日本の社会にみられる多文化的な状況を知り、こうした状況の中での多様な文化との共生について考えていきたい。また比較対象として、日本以外の社会についても見ていく予定である。						
到達目標	身近に存在する文化の多様性について理解を深める 多文化共生についての理解を深める						
授業計画	第1回イントロダクション 第2回日本社会における在住外国人の概要 第3回映像に見る多文化社会日本の歴史 第4回異文化接触空間と多文化イベント 第5回グローバリゼーションと共生 第6回グローバリゼーションと人の移動 第7回グローバリゼーションと日本社会 第8回法的制度 第9回外国人労働と受入れのしくみ 第10回外国人労働者の受入れ制度の比較 第11回在住外国人と暮らし①在住外国人の語りに耳を傾ける 第12回在住外国人と暮らし②グループプレゼンテーション 第13回在日外国人と教育 第14回映像から知る在日外国人と教育 第15回まとめ 講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります						
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから時事問題を意識して知ろうとする習慣を身につけてください						
授業方法	講義形式を主とし、必要に応じて演習を行う						
評価基準と評価方法	小テスト（複数回実施）60%、課題30%、授業中にかいてもらう簡単なレポート・平常点10%で評価する						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。 多文化社会への道 著 駒井洋編（明石書店）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論B						
担当教員	辻野 理花						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダーの比較文化						
授業の概要	比較文化にはさまざまな視点から考えていくことができる。本講義では、比較の視点で複数の社会の文化をジェンダーをキーワードに考察していく。映像資料も活用しながら、他者の目でとらえた文化、創りだされるイメージやそれがもたらす影響などについても見ていく予定である。						
到達目標	文化の多様性について理解を深める						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 ジェンダーについて 第3回 文化とジェンダー 第4回 フェミニズムとジェンダー研究 第5回 創られるジェンダーのイメージ①メディアとジェンダー 第6回 創られるジェンダーのイメージ②PSA広告の分析 第7回 創られるジェンダーのイメージ③グループプレゼンテーション 第8回 ジェンダーと性別分業 第9回 社会とジェンダー 第10回 開発 第11回 開発とジェンダー 第12回 映像に見る開発とジェンダー 第13回 労働とジェンダー 第14回 ワーク・ライフ・バランス 第15回 まとめ 講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります 映像資料も必要に応じて活用しながら講義をします						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ視点から、みなさんが生活している社会について考えてみてください						
授業方法	講義形式を主とし、必要に応じて演習を行う						
評価基準と評価方法	小テスト（複数回実施）60%、課題30%、授業中にかいてもらう簡単なレポート・平常点10%で評価する						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子他編著、2013、ミネルヴァ書房 その他授業中に随時紹介します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	第二言語習得論A／Studies for Second Language Acquisit						
担当教員	大和 祐子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第二言語習得						
授業の概要	第二言語習得論の基礎を学び、日本語教育をはじめとする言語教育になぜ第二言語習得論が必要か考える。						
到達目標	第二言語習得に関する基本的な用語が分かり、説明することができる。第二言語習得論で扱われる現象を自分自身の外国語学習経験と照らし合わせて考えることができる。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：第二言語習得論とは 第3回：中間言語(1)独自のルール 第4回：中間言語(2)中間言語の発達 第5回：言語転移(1)母語の影響 第6回：言語転移(2)言語転移に影響する要因 第7回：習得順序 第8回：発達順序 第9回：インプットとアウトプット 第10回：アウトプットの効果 第11回：文法を教えることの意義(1)意識的な知識 第12回：文法を教えることの意義(2)教室での学習の意味 第13回：文法を教えることの意義(3)教室でのインプット 第14回：まとめと試験 第15回：試験返却・解説・質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で扱う専門用語の予習・復習を行うこと。						
授業方法	講義形式で行うが、グループワーク、簡単な発表も予定している。						
評価基準と評価方法	テスト（レポート、課題含む）50％、平常点（授業への貢献度、授業態度）50％。 欠席は減点対象とする。						
教科書	『日本語を教えるための第二言語習得論入門』 監修：白井恭弘 著者：大関浩美 くろしお出版 ISBN:978-4-87424-480-7						
参考書							

Year	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
Population (millions)	7.7	7.9	8.1	8.3	8.5	8.7	8.9	9.1	9.3	9.5	9.7	9.9	10.1	10.3	10.5	10.7	10.9	11.1	11.3	11.5	11.7
GDP (trillion USD)	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0	31.0	32.0	33.0	34.0	35.0
Life expectancy (years)	75.0	75.5	76.0	76.5	77.0	77.5	78.0	78.5	79.0	79.5	80.0	80.5	81.0	81.5	82.0	82.5	83.0	83.5	84.0	84.5	85.0
Urban population (%)	55.0	56.0	57.0	58.0	59.0	60.0	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0	66.0	67.0	68.0	69.0	70.0	71.0	72.0	73.0	74.0	75.0
Renewable energy (%)	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	22.0	23.0	24.0	25.0	26.0	27.0	28.0	29.0	30.0
CO2 emissions (Gt)	15.0	15.5	16.0	16.5	17.0	17.5	18.0	18.5	19.0	19.5	20.0	20.5	21.0	21.5	22.0	22.5	23.0	23.5	24.0	24.5	25.0
Forest cover (%)	31.0	31.5	32.0	32.5	33.0	33.5	34.0	34.5	35.0	35.5	36.0	36.5	37.0	37.5	38.0	38.5	39.0	39.5	40.0	40.5	41.0
Healthcare expenditure (%)	10.0	10.5	11.0	11.5	12.0	12.5	13.0	13.5	14.0	14.5	15.0	15.5	16.0	16.5	17.0	17.5	18.0	18.5	19.0	19.5	20.0
Internet usage (%)	40.0	45.0	50.0	55.0	60.0	65.0	70.0	75.0	80.0	85.0	90.0	95.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Gender inequality index	0.75	0.76	0.77	0.78	0.79	0.80	0.81	0.82	0.83	0.84	0.85	0.86	0.87	0.88	0.89	0.90	0.91	0.92	0.93	0.94	0.95
Human Development Index	0.70	0.72	0.74	0.76	0.78	0.80	0.82	0.84	0.86	0.88	0.90	0.92	0.94	0.96	0.98	1.00	1.02	1.04	1.06	1.08	1.10

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	中国書道史						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国の書道史						
授業の概要	中国史の時代区分を追いながら書の歴史の変遷を講ずる、併せて政治・経済・思想や文化の事情を知り、歴史上の人物像についても解説しより深い理解を目指したい。テキストに沿って進行、より精度の高い文字資料の映像や実物資料の提示と解説も行う。						
到達目標	漢字の発生からその変遷進化、書体の完成、書芸術の発生展開などがわかるようになる。 中国の書の歴史の基本的事項について理解習得することができる。						
授業計画	第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布とその説明、工具書や関連参考文献の紹介。 中国書道史の導入として文字の始まり、つまり漢字創成の伝説と実際について解説。 第2回：殷、西周。（甲骨文、金文、列国体、石鼓文） 第3回：西周、東周。（列国体、石鼓文、簡牘書、帛書、篆書） 第4回：秦、前漢。（篆書、簡牘書、帛書、隸書） 第5回：後漢。（八分隸、漢碑） 第6回：三国、西晋。（残紙、楷書の定立、書人の登場） 第7回：東晋。（王羲之・王献之、書芸術の出現） 第8回：南北朝。（南朝＝羲之の継承、北朝＝北碑、龍門二十品など） 第9回：隋、唐。（墓誌銘、楷書の完成、初唐の三大家） 第10回：唐。（中唐・晩唐の書、顔真卿） 第11回：宋。（淳化閣帖、北宋の四大家、南宋・金の書） 第12回：元、明。（趙孟頫・復古主義、元末明初の書人） 第13回：明。（文人主義、中期の書道興隆、帖学、董其昌、明末ロマン主義） 第14回：清。（明末清初の書、帖学派・碑学派） 第15回：清。（揚州八怪、金石学、篆隸の書、篆刻）						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業は中国史の時代区分を追いながら進める。よって、中学高校レベルの中国史の基礎教養を必要とするのでその復習をしておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	書名/中国書道史年表 著訳編註名/玉村霽山 出版社/二玄社 ISBN/4544012414 必要に応じプリントを配布する。						
参考書	書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	地域文化論A						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の祭礼と芸能						
授業の概要	この講義では、地域文化を知るため「祭礼（お祭り）」を中心として、日本の歴史と芸能について考える。古代の祭礼の代表として「賀茂祭（葵祭）」、中世の祭礼の代表として「祇園祭」をとりあげ、それぞれの祭礼の基盤となる信仰について、歴史的、文化的、および社会的な側面について概観する。なお、講義はわかりやすいように、適宜、ビデオ映像などを用いながら進めていく。						
到達目標	日本各地に残る芸能や祭礼の意味と意義やその歴史的な背景について説明することができる。						
授業計画	第1回 古代の祭礼 1 神と祭礼 神楽・巫女舞 第2回 古代の祭礼 2 よりしろ・よりまし 東アジアの神々 第3回 古代・中世の祭礼 賀茂祭 1 第4回 古代・中世の祭礼 賀茂祭 2 第5回 中世の祭礼 中央から地方へ 第6回 中世の祭礼 田楽 第7回 古代・中世の祭礼 仏教と祭礼 第8回 古代・中世の祭礼 寺院と仏像 第9回 古代・中世の祭礼 カミとホトケ 第10回 古代・中世の祭礼 御霊信仰 第11回 中世の祭礼 祇園祭 疫病と牛王天王 第12回 中世の祭礼 祇園祭 御輿渡御と山鉦巡行 第13回 中世の祭礼 祇園祭 山鉦と風流 第14回 中世の祭礼 祇園祭 日本全国の祇園祭 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のＡＶセンターにあるＤＶＤで学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	地域文化論B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ミュージカルと日本演劇						
授業の概要	「地域文化」の事例として、「ミュージカル」を取り上げる。 現代のアメリカ文化の代表ともいえるミュージカルがどのように作り上げられてきたか、またそれが映画や音楽にどのように影響を与えてきたか、さらには日本でどのように上演されてきたのかをできるだけ具体的に考えた い。適宜映画やビデオ映像などを用いながら授業をすすめていく予定である。						
到達目標	ミュージカルという演劇の歴史、および日本への影響について説明することができる。						
授業計画	第1回 日本の近代演劇史の概観 第2回 オペラからミュージカルへーミュージカルの誕生ー 第3回 アメリカでのショービジネスの成立とミュージカル 第4回 「オクラホマ」から「サウンド・オブ・ミュージック」 第5回 ロジャースとハマースタイン（1940～50年代） 第6回 「ウエスト・サイド物語」 第7回 「マイ・フェア・レディ」 第7回 ハロルド・プリンスとジェームス・ロビンソンとソンドハイムの時代（1960年代） 第9回 ロンドンミュージカル「コーラスライン」と「キャッツ」 第10回 「オペラ座の怪人」 第10回 アンドリュー・ロイド・ウェバー（1970～80年代） 第11回 ディズニーミュージカル「ライオンキング」 第12回 アメリカの苦悩「レント」とラーソン（一九九〇年代以降） 第13回 日本でのミュージカルの上演 第14回 現在のミュージカル・他の演劇との関係 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のＡＶセンターにあるＤＶＤで舞台映像を見て学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配付						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学A／日朝対照言語学A						
担当教員	李 允昊						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と韓国語の対照研究						
授業の概要	「日本語と韓国語は酷似している」といわれるほど、日本語話者にとって韓国語はとっつきやすい言語といえる。本講義では対照言語学的観点を中心に、日本語と韓国語を観察・比較し、それぞれの言語に隠されている文化を読み取っていききたい。						
到達目標	1. 日本語話者に間違いやすい韓国語の発音・語彙・文法・言い回しと、韓国語話者に間違いやすい日本語の発音・語彙・文法・言い回しがなぜ生じるかを認識する。 2. 韓国人日本語学習者に日本語を効果的に教えるための力を養う。 3. 言語の形や機能だけでなく、相互理解や文化理解、異文化対応に必要な能力を養う。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 日韓語の母音と子音 3. 日韓文化の理解 1 4. 日韓語の音節構造 5. 韓国語のパソコン入力 6. 日韓語の名詞文 7. 日韓文化の理解 2 8. 日韓語の用言文 9. 日韓語の助詞 10. 日韓語の助数詞 11. 日韓文化の理解 3 12. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 1 13. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 2 14. 調べてみよう、日本語と多言語の類似点・相違点 3 15. まとめ＋期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の内容をまとめて提出する課題があります。						
授業方法	講義中心（＋討論）						
評価基準と評価方法	平常点 30% 課題発表 30% 期末試験 40%						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	『ことはと文化の日韓比較－相互理解をめざして』（斉藤明美） 『箸とチョッカタクーことばと文化の日韓比較』（任荣哲・井出里咲子）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学B／日朝対照言語学B						
担当教員	李 允昊						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と韓国語の対照研究						
授業の概要	「日本語と韓国語は酷似している」といわれるほど、日本語話者にとって韓国語はとっつきやすい言語といえる。本講義では対照言語学的観点に基づき、日本語と韓国語を観察・比較し、それぞれの言語に隠されている文化を読み取っていききたい。						
到達目標	1. 日本語話者に間違いやすい韓国語の発音・語彙・文法・言い回しと、韓国語話者に間違いやすい日本語の発音・語彙・文法・言い回しがなぜ生じるかを認識する。 2. 韓国人日本語学習者に日本語を効果的に教えるための力を養う。 3. 言語の形や機能だけでなく、相互理解や文化理解、異文化対応に必要な能力を養う。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 日韓語の語彙 3. 日韓文化の理解 1 4. 日韓語のアスペクト 5. 日韓語の表現構造 6. 日韓文化の理解 2 7. 日韓語の否定文 8. 日韓語の受け身文 9. 日韓語の使役文 10. 日韓文化の理解 3 11. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 1 12. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 2 13. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 3 14. 調べてみよう、日本語と多言語の類似点・相違点 4 15. まとめ＋期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の内容をまとめて提出する課題があります。						
授業方法	講義中心（＋討論）						
評価基準と評価方法	平常点 30% 課題発表 30% 期末試験 40%						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	『ことはと文化の日韓比較－相互理解をめざして』（斉藤明美） 『箸とチョッカタクーことばと文化の日韓比較』（任榮哲・井出里咲子）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学A						
担当教員	古川 典代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。日本語の中に見られる中国語の影響や、中国語への日本語の逆輸入などを把握し、同時代の2言語を比較対照しながら日本語を客観的に捉える視点を育成する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）を把握することで、学習者の母語の干渉についても理解を深める。						
到達目標	中国語の特性を認識し、日中両言語間の類似性と相違性を把握する。						
授業計画	①中国・中国語概況 ②日本語にみられる中国語の影響と中国語にみられる日本語の影響 ③日中同形異義語 ④中国人にとって難しい日本語（作文） ⑤中国人にとって難しい日本語（会話） ⑥字幕翻訳について ⑦日本語と中国語の文法の違い ⑧アルファベットや数字によるコミュニケーション ⑨日本と中国の文化・風習の違い ⑩日中の飲食文化について ⑪まとめ ⑫受講生がテーマを決めて研究発表（習慣） ⑬受講生がテーマを決めて研究発表（文化） ⑭受講生がテーマを決めて研究発表（語彙・翻訳） ⑮総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容について、感想や疑問点を提出。次回時に質問に対する回答などのコメントを発表する。						
授業方法	講義（グループ発表を含む）						
評価基準と評価方法	平常点50% 発表30% レポート20%						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲 くろしお出版						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学B						
担当教員	古川 典代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。 前期で日中対照言語学の概要を把握したので、後期は代表論文を通して日中対照言語学の研究状況を把握する。 また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）干渉について誤用例分析を行う。						
到達目標	日中対照言語学Aの基礎のもと、中国語母語話者への日本語教育時における母語の干渉について理解し、教授効果をあげる工夫ができるようにする。						
授業計画	①中国の通過儀礼（結婚式事情） ②日中祝祭日比較 ③外来語の受容と色彩感覚の差異 ④日本語と中国語の同形異義語 ⑤中国語の発音特性 ⑥中国語の文法特性 ⑦中国人日本語学習者の誤用分析 ⑧日本語と中国語の対照論文分析Ⅰ ⑨日本語と中国語の対照論文分析Ⅱ ⑩まとめ、ディスカッション、課題提示 ⑪個人研究発表1（国情の違い） ⑫個人研究発表2（文化・風習の違い） ⑬個人研究発表3（言葉の違い） ⑭研究発表の補足と講評 ⑮総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容について、感想や疑問点を提出。次回時に質問に対する回答などのコメントを発表する。						
授業方法	講義（グループ発表を含む）						
評価基準と評価方法	平常点50% 発表20% レポート30%						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲 くろしお出版						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学A						
担当教員	里井 真理子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究						
授業の概要	日本語と英語について歴史や文法など、いろんな側面を対照研究することにより両者の差異と共通点を見ていきます。また日本語学習者、英語学習者にとって習得することが難しいと言われる「日本語らしさ」「英語らしさ」についても考えていきます。						
到達目標	日本語と英語の対照研究における基本的な事柄を学ぶことができます。						
授業計画	第1回 ガイダンス 英語と日本語の違いについて 第2回 言語の歴史 (1) 英語編 (英語以前～中期英語前半) 第3回 言語の歴史 (2) 英語編 (中期英語後半～近代英語) 第4回 言語の歴史 (3) 英語編 (現代英語)・日本語編 第5回 言語の語彙 (1) 英語編 第6回 言語の語彙 (2) 日本語編 第7回 言語の語順 (1) 英語編 第8回 言語の語順 (2) 日本語編 第9回 言語の音韻体系 (1) 英語編 第10回 言語の音韻体系 (2) 日本語編 第11回 言語の文字体系 (1) 英語編 第12回 言語の文字体系 (2) 日本語編 第13回 丁寧表現 (1) 英語編 第14回 丁寧表現 (2) 日本語編 第15回 まとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：復習をしっかりとっておいてください。 授業後学習：授業内容をしっかりとまとめておいてください。復習テストの勉強にもなります。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時の活動 (50%) ＋小テスト (30%) ＋レポートテスト (20%)						
教科書	適宜プリント配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学B						
担当教員	里井 真理子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究、及び実例の考察						
授業の概要	『日英対照言語学A』に引き続き、日本語と英語についてあらゆる側面を対照研究することにより両者の差異と共通点を見ていくとともに、実際に日常生活の中で見聞きし使用している表現についても考察していきます。						
到達目標	日本語と英語の対照研究における基本的な事柄を学ぶだけでなく、実生活においての実例を考察することが出来る。						
授業計画	第1回 言語の方言（1） 英語編 第2回 言語の方言（2） 日本語編 第3回 言語と社会階級（1） 英語編 第4回 言語と社会階級（2） 日本語編 第5回 人種・民族による語差 第6回 性別による語差 第7回 年齢による語差 第8回 ことばの持つイメージ 第9回 言語接触（1） 英語編 第10回 言語接触（2） 日本語編 第11回 非言語伝達（1） 英語編 第12回 非言語伝達（2） 日本語編 第13回 言語と文化（1） 英語編 第14回 言語と文化（2） 日本語編 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：復習をしっかりとっておいてください。 授業後学習：授業内容をしっかりとまとめておいてください。復習テストの勉強にもなります。						
授業方法	講義、実技						
評価基準と評価方法	授業時の活動（50％）＋小テスト（30％）＋レポートテスト（20％）						
教科書	適宜プリント配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語・日本文化学外研修A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	日本語を使って世界と交流する						
授業の概要	日本語学習者の中で日本語や日本文化がどのように捉えられているのかを体験する。多文化の中の日本を体験するために、協定校から本学に来ている留学生のサマープログラムでの「日本語パートナー」になることを条件とする。留学生と一緒に海外から見た日本を体験することを通じ、外国語として日本語を学んでいる現場を体験し、日本語を通して世界に触れる。 また、同時に授業内でゲストスピーカーを呼び、日本国内にいる外国人にどのような問題があるかを知ることによって日本に住んでいる外国人コミュニティの現状を知る。 この授業は学外研修なので、学外に行くことを前提とする。そのため、受講者と相談の上、他の曜日や時間帯に行うことがある。 このように、授業の中で留学生と学外に行ったり、外国人ゲストスピーカーの体験を聞く授業も含まれるため、積極的な参加を望む。						
到達目標	① 外国語として日本語を見ることができる。 ② 日本語を使って、日本語学習者と交流することができる。						
授業計画	第1回 講義：本授業のテーマおよび学外研修についてのガイダンス 第2回 講義：「学外研修①」についての説明 第3回 「学外研修①」 第4回 講義：「学外研修①」ゲストスピーカーの話を書く 第5回 講義：「学外研修②」についての説明 第6回 「学外研修②」 第7回 講義：「学外研修②」の振り返りとまとめ 第8回 講義：総まとめ ※第1・2・4・5・7・8回は講義 第3・6回は学外研修（授業時間外の研修）						
授業外における学習（準備学習の内容）	復習（研修で見聞したことの振り返り）が大切になってくるため、研修の後は、忘れないうちにノートを取るなど、復習のための作業は怠らないようにしてほしい。						
授業方法	講義および学外研修						
評価基準と評価方法	各回の学外研修後の課題と授業貢献度 30%×2回=60% 最終レポート 40%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語・日本文化学外研修B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	王朝びとの生活と文化の探究						
授業の概要	古典文学にゆかりの地を訪ねて、王朝びとの生活と文化の様相を探究する。 具体的には、京都御所や京都の寺社を訪ねて、王朝びとの住まいについて考察し、時雨殿などを訪ねて、袷や狩衣を実際に着装して、王朝人の装束について学習する。						
到達目標	実地踏査を通して、王朝びとの生活と文化について、実感を持って認識、理解できる。						
授業計画	第1回 講義：本授業のテーマおよび学外研修についてのガイダンス 第2回 講義：王朝びとの住まいと装束について（「学外研修①」についての説明） 第3回 学外研修①：嵐山「小倉百人一首時雨殿」・嵯峨野（野宮神社・清涼寺）など 第4回 講義：「学外研修①」の振り返りとまとめ 第5回 講義：古典文学にゆかりの地について（「学外研修②」についての説明） 第6回 学外研修②：京都御所・下賀茂神社など 第7回 講義：「学外研修②」の振り返りとまとめ 第8回 講義：実地踏査によって、探究したことについてのまとめ 第1・2・4・5・7・8回は講義 第3・6回は学外研修（授業時間外の研修）						
授業外における学習（準備学習の内容）	王朝びとの生活と文化に関する本を読んだり、写真集・図録や映像を見たりして、理解を深めるための努力をする。						
授業方法	講義と学外研修						
評価基準と評価方法	レポート 50% 小テスト 30% 授業・学外研修に対する取り組み 20%						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	適宜提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語学を学ぶA						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語のアスペクト (aspect) およびテンス (tense)。						
授業の概要	下記到達目標を達成する爲の講義とそれに基づく試験。						
到達目標	日本語のアスペクト・テンスの特徴を知る。 日本語(教育)学におけるアスペクト・テンスの扱ひの問題点を知る。 學説が必ずしも定まっておないことを知る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: アスペクトとは何か。 03: 完成相と繼續相の違い 04: 繼續相と完了相の違い 05: 日本語諸變種のアスペクト 06: 日本語以外のアスペクト 07: 文章指導 08: テンスとは何か。 09: 過去と非過去 10: 絶對的テンスと相對的テンスの違い 11: 日本語諸變種のテンス 12: 日本語以外のテンス 13: 反実仮想のアスペクト・テンス 14: 【試験】 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習(準備学習の内容)	教員が manaba にアップロードする豫習資料は事前に読んでおくこと。 授業は豫習 (= 事前讀書) を前提に進める。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	日々の課題およびその添削: 50點 試験: 50點 出席點は無く、出缺も取らない。						
教科書	教員が manaba にアップロードする資料。						
参考書	井上 優 (2001)「現代日本語の「タ」—主文末の「…タ」の意味について—」、つくば言語文化フォーラム (編)『「た」の言語学』、pp. 97-163、ひつじ書房 紙谷 栄治 (1977)「助動詞「た」の一解釈—形式名詞「とき」につづく場合を中心に—」、『京都府立大学学術報告 人文』29、pp. 1-10、京都府立大學 金水 敏 (2001)「テンスと情報」、『文法と音声』111、pp. 55-79、くろしお出版 工藤 真由美 (1982)「シテイル形式の意味のあり方」、『日本語学』1-12、pp. 38-47、明治書院 工藤 真由美 (1983)「宇和島方言のアスペクト (その一)」、『国文学 解釈と鑑賞』48-6、pp. 101-19、至文堂 工藤 真由美 (1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』、ひつじ書房 黒木 邦彦 (2013)「過去表現の構造とその変化」、高山 善行・青木 博文・福田 嘉一郎 (編)『日本語文法史研究1』、ひつじ書房 郡司 隆男 (2004)「日本語のアスペクトと反実仮想」、『Technical and applied linguistics at Kobe Shoin』7、pp. 21-34、神戸神戸松蔭女子學院大學 定延 利之 (2001)「情報のアクセスポイント」、『月刊言語』30-13、pp. 64-70、大修館書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語学を学ぶB						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	社会のなかの日本語						
授業の概要	ことばは、同じ内容をを表現する場合でも、それを使う人の出身地や住む場所、年齢、社会階層、言語意識の違いによってさまざまな変種があり得る。この講義では、日本における「言語と属性」「言語と文化」「言語意識」等に注目し、その理解を深めることを目指す。						
到達目標	・言語と社会にまつわる基礎的な学問的知識を身につけ、それを説明できるようになる。 ・言語とそれに関連するデータを観察し、分析することができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 言語と属性（1）性 第3回 言語と属性（2）社会階層 第4回 言語と属性（3）年齢 第5回 ここまでのまとめ① 第6回 言語接触 第7回 言語変化 第8回 言語意識 第9回 言語と場面 第10回 ここまでのまとめ② 第11回 ポライトネス 第12回 言語景観・多言語社会 第13回 言語と文化（1）親族呼称と文化etc. 第14回 言語と文化（2）メタファーと文化etc. 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	前回の講義内容をふまえた上で講義を進めることになるため、復習を怠らないこと。また、敬語を含めことばの問題を身近な例で確認することに努めてほしい。 テストを数回行うので、授業で学んだことをふまえて整理すること。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある（これらの活動も評価対象になる）。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価30%、中間試験20%（×2）、期末試験30%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育演習A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育実習						
授業の概要	日本語教育の模擬実習を行う。初級教材「みんなの日本語」の教材研究のあと、模擬授業のためなさまざまな教授法について概説する。また、導入、ドリルの種類、パターンプラクティス、文型練習、コミュニケーションな練習など授業の流れにそって、その具体的な技術、学習者への対応など実習に必要な技術の指導をし、教案作成などの実習のための下準備をし、模擬授業を実施する。授業外ではアメリカ、アジアの協定校からの語学留学生の日本語パートナーとして、日本語習得の手伝いをし、日本語指導だけではなく、異文化コミュニケーションも体験することができる授業となる。授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学外での授業実習（見学）を行うことがある。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。 ② 教案を作ることができる。 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。						
授業計画	第1回 実習指導1・教授法 第2回 実習指導2・教材研究 色々な教え方 第3回 実習指導3・教材研究 パターンプラクティスに基づく練習 第4回 実習指導4・教案指導の書き方 第5回 実習指導5・教案指導を書く 第6回 文型の調べ方 第7回 文型の説明の仕方 第8回 初級のポイント 第9回 模擬授業1 L2, L3 第10回 模擬授業2 L4, L5 第11回 模擬授業3 L6, L7 第12回 模擬授業4 L8, L9 第13回 模擬授業5 L10, L11 第14回 模擬授業6 L11, L12 第15回 学外の日本語教育施設における授業見学						
授業外における学習（準備学習の内容）	模擬授業の為の資料探しや、教材作を積極的に行うこと。						
授業方法	講義形式＋実習（模擬授業）						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
教科書	みんなの日本語 初級Ⅰ本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISDN4-88319-102-8						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育実習						
授業の概要	日本語教育実習の第二段階として、模擬授業と教壇実習を行う。文型を積み重ね教育での日本語教育初級の流れと全体をつかみ、初中級、中級、上級へと続く日本語教育の基礎固めを行う。ここでは初級の4技能のうち特に「話す・聞く」教育に重点を置く。最後に学内の英語教員、あるいは学外の日本語学習者などを対象とした教壇実習を行う。この教壇実習は、媒介語、板書、学習者の反応など日本語教育の現場で起こる具体的、個別的な事例を体験し、多様化する学習者に対応できるような機会を提供することを目的とする。また、授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学外での授業実習〔見学〕を行うことがある。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。 ② 教案を作ることができる。 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。						
授業計画	第1回 レポートの好評 第2回 上手な教え方のコツ 第3回 上手な教え方の工夫 第4回 ゲームを作ってみましょう 第5回 模擬授業1 L13, L14 第6回 模擬授業2 L15, L16 第7回 模擬授業3 L17, L18 第8回 模擬授業4 L19, L20 第9回 模擬授業5 L21, 第10回 模擬授業6 L22, 第11回 模擬授業7 L23, 第12回 模擬授業8 L24, 第13回 模擬授業9 L25, 第14回 模擬授業の振り返り・まとめ 第15回 学外での教壇実習（あるいは見学）						
授業外における学習（準備学習の内容）	模擬授業の為に資料探しや、教材作りが必要です。						
授業方法	講義形式＋実習（模擬授業）						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
教科書	みんなの日本語 初級Ⅰ本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISDN4-88319-102-8						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育入門						
授業の概要	日本語を教えるためには、まず、日本語そのものについて知る必要がある。 そのため、まず、母語としての日本語ではなく、外国語としての日本語をどのようにとらえるかを学んでいく。 同時に、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深めていく。 また、このクラスでは留学生との合同授業を行うことがあるので、積極的に参加してほしい。						
到達目標	1. 日本語教師に必要な基礎的知識を身につけ、学習者にとって何が問題となりうるのかを指摘できる。 2. 多文化共生、多言語社会を身近な問題として捉え、現状理解とともに問題点の提起ができる。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 世界のなかの日本語 第3回 日本語の特徴 第4回 序数詞 第5回 敬語について1 第6回 変体がない 第7回 共通語の成り立ち 第8回 外国人が日本らしいと感じるもの 第9回 敬語について2 第10回 あいまいな日本語 第11回 忌み言葉 第12回 若者言葉 第13回 留学生との合同授業 第14回 日本語のコミュニケーションストラテジー 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	宿題として出されたテーマは自分自身考えて調べること。						
授業方法	基本は講義形式出行うが、グループワークやディスカッションも行うため、積極的な参加を望む。						
評価基準と評価方法	平常点（授業への発言や貢献度、取り組みも含む）50%、小テスト10%、期末レポートあるいは試験40%						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育入門						
授業の概要	日本語を教えるためには、まず、日本語そのものについて知る必要がある。 そのため、まず、母語としての日本語ではなく、外国語としての日本語をどのようにとらえるかを学んでいく。 同時に、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深めていく。 また、このクラスでは留学生との合同授業を行うことがあるので、積極的に参加してほしい。						
到達目標	1. 日本語教師に必要な基礎的知識を身につけ、学習者にとって何が問題となりうるのかを指摘できる。 2. 多文化共生、多言語社会を身近な問題として捉え、現状理解とともに問題点の提起ができる。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 世界のなかの日本語 第3回 日本語の特徴 第4回 序数詞 第5回 敬語について1 第6回 変体がない 第7回 共通語の成り立ち 第8回 外国人が日本らしいと感じるもの 第9回 敬語について2 第10回 あいまいな日本語 第11回 忌み言葉 第12回 若者言葉 第13回 留学生との合同授業 第14回 日本語のコミュニケーションストラテジー 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	宿題として出されたテーマは自分自身考えて調べること。						
授業方法	基本は講義形式出行うが、グループワークやディスカッションも行うため、積極的な参加を望む。						
評価基準と評価方法	平常点（授業への発言や貢献度、取り組みも含む）50%、小テスト10%、期末レポートあるいは試験40%						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期／1st semester	曜日・時間	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしながら、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。「話す」「聞く」「読む」「書く」の技能別指導方法も具体的に学ぶ。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定している。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ② よく似た文法の違いを日本語の母語としない人に説明することができる。 ③ 日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。						
授業計画	第1回 はじめに・名詞文 第2回 形容詞文 第3回 動詞の分類 第4回 辞書形 第5回 ます形 第6回 て形 第7回 た形 第8回 可能形 第9回 受身形 第10回 使役形 第11回 条件 第12回 自動詞 第13回 他動詞 第14回 留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回 まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物:10% 授業参加・積極性:50% 期末試験あるいはレポート:40%						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	藤井 千枝						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしながら、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、国語教育とは何が違うのかという視点を獲得していく。「話す」「聞く」「読む」「書く」の技能別指導方法も具体的に学ぶ。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定している。						
到達目標	①日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ②よく似た文法の違いを日本語の母語としない人に説明することができる。 ③日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。						
授業計画	第1回 はじめに・名詞文 第2回 形容詞文 第3回 動詞の分類・辞書形 第4回 ます形／て形／た形 第5回 条件 第6回 自動詞・他動詞 第7回 テンス 第8回 アスペクト 第9回 モダリティ 第10回 終助詞 第11回 副詞 第12回 接続詞 第13回 待遇表現・敬語 第14回 留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回 まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語教授法基礎A Bは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、中級、上級での「会話」「聴解」「作文」教育などの実際も学びながら、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語習得、継承言語など日本語教育をとりまく様々な問題点にもふれる。授業の中で留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ② よく似た文法の違いを日本語の母語としない人に説明することができる。 ③ 日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。						
授業計画	第1回 テンス 第2回 アスペクト 第3回 モダリティ 第4回 終助詞 第5回 副詞 第6回 接続詞 第7回 待遇表現 第10回 敬語 第11回 対照言語学1（言語類型論） 第12回 対照言語学2（英・中・韓国語との比較） 第13回 初級の指導 第14回 中級の指導 第15回 まとめと到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	藤井 千枝						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やししながら、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、中級・上級での「会話」「聴解」「作文」教育などの実際も学びながら、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語教育、継承言語など、日本語をとりまく様々な問題点にもふれる。						
到達目標	①日本語の文法の仕組みやルールを外国語として説明することができる。 ②よく似た文法の違いを日本語の母語としない人に説明することができる。 ③日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。						
授業計画	第1回 初級の指導 第2回 中級の指導 第3回 上級の指導 第4回 日本語の誤用分析 第5回 日本語の音声1（アクセントなど） 第6回 日本語の音声2（調音点・調音法） 第7回 日本語の音声3（発音表記） 第8回 日本語の音声4（学習者の母語との関係） 第9回 対照言語学1（言語類型論） 第10回 対照言語学2（英・中・韓国語との比較） 第11回 対照言語学3（英・中・韓国語との比較） 第12回 年少者への日本語教育・第二言語習得 第13回 聴解演習1 第14回 聴解演習2 第15回 まとめと到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語教授法基礎Aは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	・課題、試験などの総合評価とする。 ・小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	森 美抄子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるというのはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要していること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身につける。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。						
授業計画	第1回：日本語教育入門 第2回：日本語の文法 第3回：シラバス 第4回：コースデザイン 第5回：外国語教授法1 文法訳読法 第6回：外国語教授法 1 オーディオ・リンガル・メソッド 第7回：外国語教授法 2 サイレント・ウェイ 第8回：外国語教授法 3 TPR 第9回：外国語教授法 4 ナチュラル・アプローチ 第10回：外国語教授法 5 コミュニカティブ・アプローチ 第11回：外国語教授法 6 OPI 第12回：評価法 第13回：コミュニケーション教育 第14回：留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	『ベーシック日本語教育』（佐々木泰子著・ひつじ書房）						
参考書	『日本語教授法ワークショップ(増補版)』（凡人社）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	山極 美奈子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。 また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。						
授業計画	第1回：日本語教育入門 第2回：日本語教育概説 1 第3回：日本語教育概説 2 第4回：コースデザイン 第5回：シラバス 第6回：外国語教授法 1 オーディオ・リンガル・メソッド 第7回：外国語教授法 2 T P R 第8回：外国語教授法 3 コミュニカティブ・アプローチ 第9回：外国語教授法 4 サイレント・ウェイ 第10回：外国語教授法 5 O P I 第11回：外国語教授法 6 ナチュラル・アプローチ 第12回：日本語のテスト 第13回：評価法（テストの作り方） 第14回：留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物:10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	「ベーシック日本語教育」佐々木泰子編 ひつじ書房 ISBN978-4-89476-285-5						
参考書	「日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド」ヒューマンアカデミー著 ISBN978-4-7981-1788-1						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	森 美抄子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるというのはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と心理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身につける。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。						
授業計画	第1回：異文化接触と日本語教育・言語と社会 第2回：言語と心理、言語習得 第3回：初級の指導について 第4回：中級の指導について 第5回：上級の指導について 第6回：教材分析1（教科書分析） 第7回：教材分析2（教材のあり方） 第8回：「聞く」「話す」指導法 1（教材紹介） 第9回：「聞く」「話す」指導法 2（教材作成） 第10回：「聞く」「話す」指導法 3（講評・まとめ） 第11回：「読む」「書く」指導法 1（教材紹介） 第12回：「読む」「書く」指導法 2（教材作成） 第13回：「読む」「書く」指導法 3（講評・まとめ） 第14回：異文化理解と異文化間教育 第15回：技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークも行う。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	『ベーシック日本語教育』（佐々木泰子著・ひつじ書房）						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	山極 美奈子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。						
授業計画	第1回：日本語学習者について 第2回：教科書研究1 第3回：教科書研究2 第4回：教科書と教材・教具について 第5回：「聞く」「話す」指導法 1 「パターンブラックティス」 第6回：「聞く」「話す」指導法 2 「タスク」 第7回：「聞く」「話す」指導法 3 「スキニング」 第8回：「読む」「書く」指導法 1 「スキミング」 第9回：「読む」「書く」指導法 2 「精読」 第10回：「読む」「書く」指導法 3 「作文」 第11回：初級の指導について 第12回：中級の指導について 第13回：上級の指導について 第14回：中級・上級の指導法 まとめ 第15回：技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	「ベーシック日本語教育」佐々木泰子編 ひつじ書房 ISBN978-4-89476-285-5						
参考書	「日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド」ヒューマンアカデミー著 ISBN978-4-7981-1788-1						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語史A						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法とその歴史。						
授業の概要	下記到達目標を達成する爲の講義とそれに基づく試験。						
到達目標	言語の構造を捉へて、「文法」といふ言葉に対する漠然としたイメージを具体化する。 日本語文法の歴史を知る。 學説が必ずしも定まってゐないことを知る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 現代日本語における動詞の構造 03: 文法接尾辭と派生接尾辭の違い 04: 語幹の派生 05: 古典日本語における動詞の構造: 資料収集 06: 古典日本語における動詞の構造: 分析 07: 古典日本語における動詞の構造: 記述 08: 古典日本語における動詞の構造: 記述の添削 09: 現代日本語の主格助詞と属格助詞 10: 現代日本語の名詞節 11: 現代日本語の連體修飾節 12: 古典日本語の主格助詞、属格助詞、名詞節、連體修飾節: 資料収集 13: 古典日本語の主格助詞、属格助詞、名詞節、連體修飾節: 分析 14: 古典日本語の主格助詞、属格助詞、名詞節、連體修飾節: 記述 15: 古典日本語の主格助詞、属格助詞、名詞節、連體修飾節: 記述の添削						
授業外における学習（準備学習の内容）	教員が manaba にアップロードする豫習資料は事前に読んでおくこと。 授業は豫習（＝事前讀書）を前提に進める。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	日々の課題およびその添削: 100點 出席點は無く、出缺も取らない。						
教科書	教員が manaba にアップロードする資料。						
参考書	上山 あゆみ (1991) 『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』、くろしお出版 大木 一夫 『ガイドブック日本語史』、ひつじ書房 沖森 卓也 (編著)、陳 力衛・肥爪 周二・山本 真吾 (2010) 『日本語史概説』、朝倉書店 小田 勝 (2015) 『実例詳解 古典文法総覧』、和泉書院 風間 伸次郎 (1992) 「接尾型言語の動詞複合体について: 日本語を中心として」、 宮岡伯人 (編) 『北の言語: 類型と歴史』、pp. 241-60、三省堂 清瀬 義三郎則府 (1971) 「連結子音と連結母音と—日本語動詞無活用論—」、 『国語学』86、pp. 42-56、国語学会 南 不二男 (1962) 「三 文法」、国語学会 (編) 『方言学概説』、pp. 209-55、武蔵野書院 南 不二男 (1974) 『現代日本語の構造』、大修館書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語史B						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	歴史言語学、比較言語学、言語地理学。						
授業の概要	下記到達目標を達成する為の講義とそれに基づく試験。						
到達目標	言語変化の要因および一般性を知る。 古典に関する文献学的知識を身に附ける。 時代ないし地域に據る言語の差異を知る。 日本語音韻史の概要を掴む。 學説が必ずしも定まってゐないことを知る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 第1章 ことばは変化する——歴史言語学序説 03: 第2章 ことばはなぜ変化するのか 04: 第3章 信頼できるテキストを求めて 05: 第4章 文献にあらわれた言語の性格 (1) ——作品成立時の言語の姿にせまる 06: 第5章 文献にあらわれた言語の性格 (2) ——言語の位相差と地域差 07: 第6章 文献による言語の歴史 08: 文章指導 09: 第7章 文献以前の言語の姿をさぐる 10: 第8章 言語の地域差と言語の歴史 (1) ——比較方言学とその方法 11: 第9章 言語の地域差と言語の歴史 (2) ——言語地理学とその方法 12: 第11章 言語の体系性と言語の歴史——内的再建 13: 第12章 社会のなかの言語と言語変化 14: 【試験】 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習 (準備学習の内容)	各回で取り上げる章は事前に読んでおくこと。 授業は豫習 (= 事前読書) を前提に進める。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	日々の課題およびその添削: 50点 試験: 50点 出席点は無く、出缺も取らない。						
教科書	大木 一夫『ガイドブック日本語史』、ひつじ書房						
参考書	沖森 卓也 (編著)、陳 力衛・肥爪 周二・山本 真吾 (2010)『日本語史概説』、朝倉書店 小松 茂美 (1968)『かな—その成立と変遷—』(岩波新書・青版679)、岩波書店 樺島 忠夫 (1979)『日本の文字—表記体系を考える—』(岩波新書・黄版75)、岩波書店 馬淵 和夫 (1993)『五十音図の話』、大修館書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語について観察・検討し、それによって自らのことばへの関心を引き出す。また、その中で日本語の音声・音韻、文字表記、語彙、文法等の研究に関するごく基礎的な知識を身につける。						
到達目標	日本語の諸研究に関する基礎的な知識を身につけ、それらについての説明ができるようになる。						
授業計画	第1回 はじめに（言語と人間） 第2回 日本語の音声・音韻（1）音声と音韻、母音 第3回 日本語の音声・音韻（2）子音 第4回 日本語の音声・音韻（3）アクセント、イントネーション 第5回 日本語の文字表記（1）漢字 第6回 日本語の文字表記（2）送り仮名 第7回 日本語の文字表記（3）仮名、ローマ字、仮名遣い 第8回 日本語の語彙（1）語彙と語彙調査、語の意味 第9回 日本語の語彙（2）語種と語構成 第10回 日本語の文法（1）学校文法の考え方 第11回 日本語の文法（2）現代の文法研究の考え方 第12回 日本語の文法（3）文法概念、語用論 第13回 日本語の方言 第14回 日本語の位置 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題：10% 授業参加・積極性：50% 試験あるいはレポート：40% 授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	藤田保幸（2010）『緑の日本語学教本』和泉書院 ISBN 978-4-7576-0541-1						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期／1st semester	曜日・時間	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。						
到達目標	大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 オリエンテーション 第3回 ノートの取り方 第4回 図書館の使い方 第5回 わかりにくい文 第6回 段落と中心文 第7回 読書レビューを書く 第8回 感想文 第9回 説明文 第10回 要約 第11回 事実文 第12回 意見文 第13回 レポートを書く1-レポートの形式を学ぶ- 第14回 レポートを書く2-資料を集める- 第15回 レポートを書く3-レポートを書く- 後期に向けての課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10%、授業参加・積極性:50%、試験あるいはレポート:40%。授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時間	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。						
到達目標	大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 オリエンテーション 第3回 ノートの取り方 第4回 図書館の使い方 第5回 わかりにくい文 第6回 段落と中心文 第7回 読書レビューを書く 第8回 感想文 第9回 説明文 第10回 要約 第11回 事実文 第12回 意見文 第13回 レポートを書く1-レポートの形式を学ぶ- 第14回 レポートを書く2-資料を集める- 第15回 レポートを書く3-レポートを書く- 後期に向けての課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10%、授業参加・積極性:50%、試験あるいはレポート:40%。授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。						
到達目標	大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 オリエンテーション 第3回 ノートの取り方 第4回 図書館の使い方 第5回 わかりにくい文 第6回 段落と中心文 第7回 読書レビューを書く 第8回 感想文 第9回 説明文 第10回 要約 第11回 事実文 第12回 意見文 第13回 レポートを書く1-レポートの形式を学ぶ- 第14回 レポートを書く2-資料を集める- 第15回 レポートを書く3-レポートを書く- 後期に向けての課題						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10%、授業参加・積極性:50%、試験あるいはレポート:40%。授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語について観察・検討し、それによって自らのことばへの関心を引き出す。また、その中で日本語の音声・音韻、文字表記、語彙、文法等の研究に関するごく基礎的な知識を身につける。						
到達目標	日本語の諸研究に関する基礎的な知識を身につけ、それらについての説明ができるようになる。						
授業計画	第1回 はじめに（言語と人間） 第2回 日本語の音声・音韻（1）音声と音韻、母音 第3回 日本語の音声・音韻（2）子音 第4回 日本語の音声・音韻（3）アクセント、イントネーション 第5回 日本語の文字表記（1）漢字 第6回 日本語の文字表記（2）送り仮名 第7回 日本語の文字表記（3）仮名、ローマ字、仮名遣い 第8回 日本語の語彙（1）語彙と語彙調査、語の意味 第9回 日本語の語彙（2）語種と語構成 第10回 日本語の文法（1）学校文法の考え方 第11回 日本語の文法（2）現代の文法研究の考え方 第12回 日本語の文法（3）文法概念、語用論 第13回 日本語の方言 第14回 日本語の位置 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題：10% 授業参加・積極性：50% 試験あるいはレポート：40% 授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	藤田保幸（2010）『緑の日本語学教本』和泉書院 ISBN 978-4-7576-0541-1						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	宮沢賢治を楽しむ						
授業の概要	宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』を主たる題材として色々な問題を考える。宮沢賢治は、童話作家、詩人、音楽家、科学者など、様々な形で語られており、様々な点から、自由に読むことが可能な存在である。映画化、舞台化、テレビドラマ化、アニメ化、コミック化された作品も多く、それらとの比較も興味深い問題を提供してくれる。賢治自身の思いを考えるとともに、どのように読まれてきたか、受け入れられてきたかを追求する。						
到達目標	作品を素朴に読むのではなく、様々な点から読みの可能性を追究する。 発表メディアについても考察し、一面的な読み、平面的な読みから脱却する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 宮沢賢治とは 第3回 小説と童話 第4回 『銀河鉄道の夜』のこと 第5回 S F 小説 第6回 『銀河鉄道の夜』の構想 第7回 『銀河鉄道の夜』完成稿 第8回 『銀河鉄道の夜』の草稿 第9回 『銀河鉄道の夜』第一次稿 第10回 『銀河鉄道の夜』第二次稿 第11回 『銀河鉄道の夜』第三次稿 第12回 映画化すること 第13回 アニメ作品 第14回 宮沢賢治の現在的意味 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	19世紀から20世紀にかけての文学作品を数多く読むこと						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%とレポート試験30%						
教科書	宮沢賢治全集〈7〉銀河鉄道の夜・風の又三郎・セロ弾きのゴーシュほか（ちくま文庫） ISBN: 4-480-02008-X						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態に迫る。日本語教材を様々な角度から分析し、そこ日本語母語話者の話す日本語がどのように整理されているのか、またその言語表現の背後にある日本語使用と意識について、考えていく。 演習はそれぞれが担当箇所を読み、まとめ、口頭発表する形式で進める。 留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。 ② 卒論につながるテーマを見つけることができる。 ③ 参考文献や資料さがすことができる。						
授業計画	第1回 第一演習についての位置づけ 第2回 日本語文法への招待 第3回 日本語の品詞 第4回 名詞述語分と形容詞述語 第5回 語から文へ――助詞 第6回 文の要素のとりたて――焦点化 第7回 ハとガの話――主語か述語か 第8回 動詞述語 第9回 ヴォイス1――受身 第10回 ヴォイス2――使役 第11回 ヴォイス3――授受 第12回 ヴォイスの選択 第13回 テンス――述語のル形とタ形 第14回 アスペクト1――ル形・タ形とテイルの形 第15回 アスペクト2――テアル・テオク・テシマウ						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表があたった問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心に行う						
評価基準と評価方法	平常点（50％）発表（20％）レポート（30％）						
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社（1800円）ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語研究の方法論。 前期（A）は、卒業研究に速やかに取り掛かる爲の装置を頭に落とし、正常に動作させる爲の訓練を重ねる。具体的には次のことを繰り返し実践する。 (1a) はじめに、現代日本語の音聲、文法、語彙に関する問題を受講生に課す。 (1b) 次に、課題（1a）に関する言語資料を収集、分析、整理する方法を受講生と黒木で議論する。 (1c) 次に、言語資料（1b）から何が分かるかを受講生各自が文章化する。 (1d) 最後に、文章（1c）での良し悪しを受講生と黒木で添削する。 上記の作業を通じて身に付ける能力は、卒業研究は無論のこと、将来どのやうな道に進んでも役に立つものである。実用性を重視する学生は是非。						
授業の概要	下記到達目標を達成する爲の講義および演習。						
到達目標	言語資料を収集、分析、整理する方法を掴む。 言語資料の読み取り方を掴む。 論理的文章の書き方を掴む。 議論の方法を掴む。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 論文講読（1）: 論旨要約 03: 論文講読（2）: 用語解説 04: 論文講読（3）: 参考文献から知識を広げる 05: 言語資料の収集（1）: 質問票作成 06: 言語資料の収集（2）: データ入力 07: 言語資料の収集（3）: 分析 08: 形態統語的特徴の整理（1）: 形態的特徴 09: 形態統語的特徴の整理（2）: 統語的特徴 10: 形態統語的特徴の整理（3）: 語類認定 11: 形態統語的特徴の整理（4）: 文の階層構造 12: 意味・用法の分類（1）: 格 13: 意味・用法の分類（2）: アスペクト（aspect）とテンス（tense） 14: 意味・用法の分類（3）: 複文 15: 総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語資料収集。 発表資料作成。 論文読解。 教員が manaba にアップロードする豫習資料は事前に読んでおくこと。 授業は豫習（＝事前読書）を前提に進める。						
授業方法	講義および演習。						
評価基準と評価方法	日々の課題およびその添削: 40点 質疑応答: 20点 學期末報告書: 40点 特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。						
教科書	教員が manaba にアップロードする資料。						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	方言の記述・分析のための準備						
授業の概要	現代日本語の話しことばにおけるさまざまな問題点を知るために、方言学のテキストを講読する。各自の興味・関心にしたがって、それぞれの課題を設定し発表する。						
到達目標	・日本語の多様性について理解を深め、そこから適切な調査対象を見つけることができるようになる。 ・基本的な知識と手法を用いてことばを分析できるようになる。 ・テキストの的確な要約ができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 発表の方法 第3回 方言学に関するテキストの講読①（第7章） 第4回 方言学に関するテキストの講読②（第8章） 第5回 方言学に関するテキストの講読③（第9章） 第6回 方言学に関するテキストの講読④（第10章） 第7回 発展演習（音声・音韻、アクセント） 第8回 方言学に関するテキストの講読⑤（第11章） 第9回 方言学に関するテキストの講読⑥（第12章） 第10回 方言学に関するテキストの講読⑦（第13章） 第11回 発展演習（文法） 第12回 研究計画の立て方 第13回 各自の研究計画の検討 第14回 予備調査の実施 第15回 予備調査結果の報告						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回講読分の予習が必要。疑問点等をチェックして授業に臨むこと。 またそれとともに、各自が研究計画をすることになるため、身近な問題としてことばに敏感であってほしい。						
授業方法	講読および演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート40%						
教科書	『方言探究法』森下喜一・大野眞男 著（朝倉書店、2001年） ISBN：978-4-254-51509-1						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	田中 まき						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『伊勢物語』の本文と絵を読む						
授業の概要	平安時代の歌物語である『伊勢物語』の演習をおこなう。 『伊勢物語』は在原業平とおぼしき「男」を主人公にした歌物語である。その男の、様々な女性との恋のやり取り、惟喬親王や友人との親愛の情などが百二十五章段に描かれている。本演習では、『伊勢物語』の本文を読み味わいながら、この物語の種々の絵巻・絵本や図書館所蔵の伊勢物語かるた・奈良絵本の絵にも注目して、この物語がどのように捉えられ、どのように享受されてきたかを考察したい。						
到達目標	『伊勢物語』の特質を探究し、平安時代の物語がどのように生成されてきたかを理解する。						
授業計画	第1回 『伊勢物語』の成立と構成についての講義 第2回 『伊勢物語』の伝本についての講義 第3回 『伊勢物語』の注釈の歴史についての講義 第4回 『伊勢物語』の生成についての講義 第5回 『伊勢物語』第1段についての講義 第6回 『伊勢物語』第2段についての演習 第7回 『伊勢物語』第4段についての演習 第8回 『伊勢物語』第5段についての演習 第9回 『伊勢物語』第6段についての演習 第10回 『伊勢物語』第9段前半についての演習 第11回 『伊勢物語』第9段後半についての演習 第12回 『伊勢物語』第12段についての演習 第13回 『伊勢物語』第23段についての演習 第14回 『伊勢物語』第41段についての演習 第15回 『伊勢物語』の生成についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	演習の発表者は種々の『伊勢物語』注釈書や文献を読んで、念入りに演習の発表準備をするのはもとより、発表者以外も『伊勢物語』の本文が読解できるよう、古文読解の基礎的事項は自宅学習しておく。 『伊勢物語』の影印本を翻字できるよう、連綿体の文字を読み取る練習をする。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習の発表内容及び演習に対する取り組み（60％）、小テスト（30％）、平常点（10％）						
教科書	『新校注 伊勢物語』片桐洋一・田中まき校注（和泉書院）						
参考書	伊勢物語 慶長十三年刊嵯峨本第一種』片桐洋一編（和泉書院） 『伊勢物語全読解』片桐洋一（和泉書院） 『伊勢物語絵巻・絵本大成』（角川学芸出版） 新編日本古典文学全集『伊勢物語』福井貞助（小学館） 新日本古典文学大系『伊勢物語』秋山 虔（岩波書店） 『伊勢物語全評釈』竹岡正夫（右文書院）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	丸山 果織						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	本演習では、まず日本の美術の展開（飛鳥～江戸時代）について理解する。「余白」「間」という視点から書、絵画、工芸、また、茶道や華道などの分野に注目し、日本文化について考察していく。						
到達目標	日本の美術の展開を理解し、日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。						
授業計画	1) ガイダンス（演習の進め方、注意事項について） 2) 飛鳥時代 3) 奈良時代 4) 平安時代① 5) 平安時代② 6) 平安時代③ 7) 平安時代④ 8) 鎌倉時代 9) 室町時代、桃山時代 10) 江戸時代① 11) 江戸時代② 12) 江戸時代③ 13) 江戸時代④ 14) 各自の関心事について小発表① 15) 各自の関心事について小発表②、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20% レポート・小テスト30% 演習の取り組み及び発表50%						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	宮沢賢治を楽しむ						
授業の概要	宮沢賢治の『セロ弾きのゴーシュ』を主たる題材として色々な問題を考える。宮沢賢治は、童話作家、詩人、音楽家、科学者など、様々な形で語られており、様々な点から、自由に読むことが可能な存在である。映画化、舞台化、テレビドラマ化、アニメ化、コミック化された作品も多く、それらとの比較も興味深い問題を提供してくれる。賢治自身の思いを考えるとともに、どのように読まれてきたか、受け入れられてきたかを追求する。						
到達目標	作品を素朴に読むのではなく、様々な点から読みの可能性を追究する。 発表メディアについても考察し、一面的な読み、平面的な読みから脱却する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 音楽家宮沢賢治 第3回 音楽小説 第4回 『セロ弾きのゴーシュ』のこと 第5回 童話と絵本 第6回 『セロ弾きのゴーシュ』の構想 第7回 「セロ」を弾くこと 第8回 「セロ」を聞くこと 第9回 印度の虎狩 第10回 愉快的馬車屋 第11回 交響曲 第12回 映画化 第13回 アニメ作品 第14回 宮沢賢治漫画館 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	19世紀から20世紀にかけての文学作品を数多く読むこと						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%とレポート試験30%						
教科書	宮沢賢治全集〈7〉銀河鉄道の夜・風の又三郎・セロ弾きのゴーシュほか（ちくま文庫） ISBN: 4-480-02008-X						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態を新たな観点から捉え直す作業をする。演習形式で進める。後半は4年次の卒業論文なども視野に入れ、自分自身のテーマを見つけていくための演習・訓練となる。留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。 ② 卒論につながるテーマを見つけることができる。 ③ 参考文献や資料をさがすことができる。						
授業計画	第1回 夏休みのレポートの発表 第2回 夏休みのレポートの発表 第3回 イクとクル、テイクとテクル 第4回 単文から複文へ～従属節の色々 第5回 連体修飾節 第6回 時を表す従属節 第7回 条件を表す条件節 第8回 出来事の関係を表す従属節 第9回 モダリティーの表現 第10回 出来事の間接づけ 第11回 終助詞 第12回 待遇表現――敬語 第13回 指示語 第14回 文から談話へ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表があたった問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心に行う						
評価基準と評価方法	平常点（50％）発表（20％）レポート（30％）						
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社（1800円）ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『宇治拾遺物語』を教材とする通時的対照日本語研究。 後期（B）は次のことを行ない、翌年の卒業研究に繋がる研究課題を探す（見附けることが出来れば、なほ良い）。 （1a）『宇治拾遺物語』（以下『宇治拾遺』）の講讀を通して、古典日本語と現代日本語の共通点・相違点を学ぶ。 （1b）『宇治拾遺』と類話を共有する『今昔物語集』などの日本語も視野に入れ、日本語を大局的に見る能力（＝卒業研究に欠かせないもの）を養ふ。 『宇治拾遺』は、鎌倉時代前期＝13世紀前半に成立したと考へられる説話集で、『宇治大納言物語』（現存はしてゐない）から漏れた説話を拾遺したものである。15巻197話から成り、「わらしべ長者」「雀の恩返し」「こぶとりじいさん」など、古典に馴染みのない者でも知ってゐる説話も見られる。 また、規範からは若干逸脱してゐるものゝ、平安時代中期の王朝文學に通じる古典日本語で書かれてゐる。臨場感に富む話しを多数収めてゐるので、初學者の學習に向いてゐる。						
授業の概要	下記到達目標を達成する爲の講義および演習。						
到達目標	古典の讀解力を高める。 古典に関する文獻學的知識を身に附ける。 文語文法を言語學的に分析し、國文法の長所および短所を知る。 學説が必ずしも定ってゐない事を知る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01：授業概要の説明と受講生各自の擔當範圍の決定 02：講讀用資料作成の指導（1） 03：講讀用資料作成の指導（2） 04：講讀用資料作成の指導（3） 05：發表擔當者を中心とする講讀演習（1） 06：發表擔當者を中心とする講讀演習（2） 07：發表擔當者を中心とする講讀演習（3） 08：ここまでの問題點の反省 09：發表擔當者を中心とする講讀演習（4） 10：發表擔當者を中心とする講讀演習（5） 11：發表擔當者を中心とする講讀演習（6） 12：ここまでの問題點の反省 13：發表擔當者を中心とする講讀演習（7） 14：發表擔當者を中心とする講讀演習（8） 15：總括						
授業外における学習（準備学習の内容）	講讀用資料作成。 論文讀解。						
授業方法	講義および演習。						
評価基準と評価方法	發表：40點 質疑應答：20點 學期末報告書：40點 特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0點とする。						
教科書	圖書館に所蔵されてゐる『宇治拾遺物語』の種々の書籍を使ふので、購入の必要は無い。						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	方言の記述・分析						
授業の概要	前期に引き続き現代日本語の話しことばにおけるさまざまな問題点を知るために、方言学のテキストを講読する。また、前期に定めた各自の研究テーマにしたがって、調査・資料収集などを行い、各自が演習形式で発表し、討論を行う。						
到達目標	・日本語の多様性について理解を深め、そこから適切な調査対象を見つけることができるようになる。 ・基本的な知識と手法を用いてことばを分析できるようになる。 ・テキストの的確な要約ができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 調査結果のまとめ方 第3回 方言学に関するテキストの講読①（第14章、第15章） 第4回 方言学に関するテキストの講読②（第1章、第2章） 第5回 方言学に関するテキストの講読③（第3章） 第6回 方言学に関するテキストの講読④（第4章） 第7回 方言学に関するテキストの講読⑤（第5章） 第8回 方言学に関するテキストの講読⑥（第6章） 第9回 発展演習（方言の分布） 第10回 個人別演習発表 第11回 個人別演習発表 第12回 個人別演習発表 第13回 個人別演習発表 第14回 個人別演習発表 第15回 個人別演習発表・まとめ（卒業論文に向けて）						
授業外における学習（準備学習の内容）	講読形式の部分は、次回講読分の予習が必要。疑問点等をチェックして授業に臨むこと。また、演習形式のところでは、発表の準備が中心となる。念入りに準備すること。						
授業方法	講読および演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート40%						
教科書	『方言探究法』森下喜一・大野眞男 著（朝倉書店、2001年） ISBN：978-4-254-51509-1 C3381						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『伊勢物語』の本文と絵を読む						
授業の概要	平安時代の歌物語である『伊勢物語』の演習をおこなう。 『伊勢物語』は在原業平とおぼしき「男」を主人公にした歌物語である。その男の、様々な女性との恋のやり取り、惟喬親王や友人との親愛の情などが百二十五章段に描かれている。本演習では、『伊勢物語』の本文を読み味わいながら、この物語の種々の絵巻・絵本や図書館所蔵の伊勢物語かるた・奈良絵本の絵にも注目して、この物語がどのように捉えられ、どのように享受されてきたかを考察したい。						
到達目標	『伊勢物語』の特質を探究し、平安時代の物語がどのように享受されてきたかを理解する。						
授業計画	第1回 『伊勢物語』の享受についての講義 第2回 『伊勢物語』第49段についての演習 第3回 『伊勢物語』第63段についての演習 第4回 『伊勢物語』第69段前半についての演習 第5回 『伊勢物語』第69段後半についての講義 第6回 『伊勢物語』第82段前半についての演習 第7回 『伊勢物語』第82段後半についての演習 第8回 『伊勢物語』第83段についての演習 第9回 『伊勢物語』第87段前半についての演習 第10回 『伊勢物語』第87段後半についての演習 第11回 『伊勢物語』第101段についての演習 第12回 『伊勢物語』第107段についての演習 第13回 『伊勢物語』第123段についての演習 第14回 『伊勢物語』第125段についての演習 第15回 『伊勢物語』の享受についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	演習の発表者は種々の『伊勢物語』注釈書や文献を読んで、念入りに演習の発表準備をするのはもとより、発表者以外も『伊勢物語』の本文が読解できるよう、古文読解の基礎的事項は自宅学習しておく。 『伊勢物語』の影印本を翻訳できるように、連綿体の文字を読み取る練習をする。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習の発表内容及び演習に対する取り組み（60％）、小テスト（30％）、平常点（10％）						
教科書	『新校注 伊勢物語』片桐洋一・田中まき校注（和泉書院）						
参考書	『伊勢物語 慶長十三年刊嵯峨本第一種』片桐洋一編（和泉書院） 『伊勢物語全読解』片桐洋一（和泉書院） 『伊勢物語古註釈大成』（笠間書院） 『伊勢物語古註釈書コレクション』片桐洋一（和泉書院） 『伊勢物語絵巻・絵本大成』（角川学芸出版）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	丸山 果織						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	本演習では、日本の美術の展開（明治～現代）について理解する。「余白」「間」という視点から書、絵画、工芸、また、茶道や華道などの分野に注目し、日本文化について考察していく。						
到達目標	日本の美術の展開を理解し、日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。						
授業計画	1) 明治時代① 2) 明治時代② 3) 明治時代③ 4) 大正時代① 5) 大正時代② 6) 大正時代③ 7) 昭和初期① 8) 昭和初期② 9) 戦中・戦後① 10) 戦後② 11) 現代 12) 各自の関心事について発表① 13) 各自の関心事について発表② 14) 各自の関心事について発表③ 15) まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20% レポート・小テスト30% 演習の取り組み及び発表50%						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代小説を読む						
授業の概要	中島京子の『平成大家族』を読む。中島京子は『小さいうち』で2010年度上半期の直木三十五賞を受賞した作家で、その『平成大家族』は自己破産、結婚、離婚、シングルマザー、いじめ、ひきこもり、認知症、介護などの問題を抱える四世帯同居大家族の混線連作小説集である。「酢こんぶプラン」「公立中サバイバル」、「時をかける老婆」、「吾輩は猫ではない」など。現代小説における諸問題もさることながら、現代日本における家族や文化風俗の問題も当然、演習での課題となることであろう。						
到達目標	現代小説の実態把握						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 中島京子について 第3回 『平成大家族』について 第4回 家族小説のこと 第5回 結婚 第6回 離婚 第7回 自己破産 第8回 シングルマザー 第9回 ひきこもり 第10回 認知症 第11回 介護 第12回 公立と私立 第13回 家長 第14回 大家族 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の文化風俗や現代日本語について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%						
教科書	中島京子『平成大家族』集英社文庫 ISBN:9784087466188						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなせているからです。 そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。第2演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような、小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。留学生との合同授業を行う場合もあります。						
到達目標	① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。 ② 卒論につながるテーマを見つけることができる。 ③ 参考文献や資料をさがすことができる。						
授業計画	第1回 第2演習についての位置づけについての概説 第2回 語彙分析の方法について 第3回 語彙分析の発表と質疑応答1 第4回 語彙分析の発表と質疑応答2 第5回 語彙分析の発表と質疑応答3 第6回 アンケート調査の方法について 第7回 用例採取の方法論について 第8回 会話分析の方法について 第9回 会話分析の発表と質疑応答1 第10回 会話分析の発表と質疑応答2 第11回 会話分析の発表と質疑応答3 第12回 用例分析の方法 第13回 用例分析の発表と質疑応答1 第14回 用例分析の発表と質疑応答2 第15回 前期のまとめとレポートについての指示						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表があたった問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする						
評価基準と評価方法	平常点（50％）発表（20％） レポート（30％）						
教科書	適宜ハンドアウトを配布						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	『古今集遠鏡』を教材とする通時的対照日本語研究 この演習では『古今集遠鏡（とほかとみ）』（以下『遠鏡』）を輪讀・逐語譯しつつ、現代日本語の特徴を掴む目的で、平安時代、江戸時代、現代の日本語に認められる共通点・相違点を学ぶ。就職活動などを考慮すると、卒業研究の研究課題は4回生までに定めておくのが理想的ではあるが（実際、黒木の第一演習Bはそうに進めてある）、この演習でそれを見附けるのも悪くはない。 『遠鏡』は、国學者として名高い本居宣長が寛政5（1793）年頃に書いた『古今和歌集』の註釋書である。この文獻において興味深いのは、宣長が『古今和歌集』の歌に對して附けた、當時 = 18世紀末の日本語（宣長は伊勢松坂出身であるから、近畿方言に基づくものか）による註釋である。元の歌、宣長譯、現代語譯を対照すれば、3種類の日本語の共通点・相違点を掴むことができる。						
授業の概要	下記到達目標を達成する爲の講義および演習。						
到達目標	古典の讀解力を高める。 古典に關する文獻學的知識を身に附ける。 文語文法を言語學的に分析し、國文法の長所および短所を知る。 學說が必ずしも定ってゐない事を知る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明と受講生各自の擔當範圍の決定 02: 講讀用資料作成の指導（1） 03: 講讀用資料作成の指導（2） 04: 講讀用資料作成の指導（3） 05: 發表擔當者を中心とする講讀演習（1） 06: 發表擔當者を中心とする講讀演習（2） 07: 發表擔當者を中心とする講讀演習（3） 08: ここまでの問題點の反省 09: 發表擔當者を中心とする講讀演習（4） 10: 發表擔當者を中心とする講讀演習（5） 11: 發表擔當者を中心とする講讀演習（6） 12: ここまでの問題點の反省 13: 發表擔當者を中心とする講讀演習（7） 14: 發表擔當者を中心とする講讀演習（8） 15: 總括						
授業外における学習（準備学習の内容）	講讀用資料作成。 論文讀解。						
授業方法	講義および演習。						
評価基準と評価方法	發表：40點 質疑應答：20點 學期末報告書：40點 特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0點とする。						
教科書	圖書館に所蔵されてゐる次の書籍を使ふので、購入の必要は無い。 今西 祐一郎（校注）『古今集遠鏡1』（東洋文庫770）、平凡社 今西 祐一郎（校注）『古今集遠鏡2』（東洋文庫772）、平凡社						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	自分のことばを見つめる						
授業の概要	実際にゼミ生の会話を録音したものを文字に起こし、それを資料として分析していく。時間が限られているとはいえ、音声を伴った談話資料には、音声事象から形態・統語事象、談話全体に及ぶ事象まで、研究・分析すべき素材が詰まっている。また、方言学・社会言語学的観点からの切り口もあるだろう。前期は資料作成に重点を置き、正確な音声の聞き取りと共通語訳の作成によって、より音声・文法・意味への関心を深めてもらいたい。						
到達目標	・音声資料を文字化することによって、音声を正しく聞き取ることができるようになる。 ・共通語訳をつけることによって、文法的・意味的領域への関心を深め、研究材料を見つけることができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 文字起こしの方法 第3回 実際に文字起こしをしてみよう 第4回 発表① 第5回 発表② 第6回 発表③ 第7回 発表④ 第8回 発表⑤ 第9回 発表⑥ 第10回 発表⑦ 第11回 発表⑧ 第12回 発表⑨ 第13回 発表⑩ 第14回 発表⑪ 第15回 発表⑫						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題とした発表資料作成など、授業外での準備が大切となるため、念入りに準備すること。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート40%						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	田中 まき						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	『源氏物語』と王朝文化の探究						
授業の概要	我が国の古典文学の中で屹立する存在である『源氏物語』の演習をおこなう。 『源氏物語』は千年もの間、連綿と読み継がれ、後世の文学や文化全般に多大な影響を及ぼしてきた。 本演習では、その『源氏物語』の魅力を明らかにできるよう、読んでいきたい。 ただし『源氏物語』は五十四帖にも及ぶ大部な物語なので、授業でその全体を細かく読解して行くのは難しい。 そこで、本演習では、本学図書館所蔵の3種の「源氏物語かるた」や「絵入り源氏物語題」の版本を題材にして、 そこに書かれた歌や文章を読み解き、また、描かれた絵の場面を説明することを入り口として、 そこに書かれた歌や本文を読み解き、また、描かれた絵の場面を説明し、『源氏物語』の絵巻や画帖の絵にも注目しながら、『源氏物語』の世界を考察して行く。						
到達目標	『源氏物語』の展開を説明できる。 『源氏物語』の本文が読解できる。						
授業計画	第1回 物語文学の展開相と『源氏物語』の概説講義 第2回 『源氏物語』の成立と構成についての講義 第3回 『源氏物語』の伝本についての講義 第4回 『源氏物語』絵についての講義 第5回 桐壺巻の演習 第6回 帚木巻の演習 第7回 空蝉巻の演習 第8回 夕顔巻の演習 第9回 若紫巻の演習 第10回 葵巻の演習 第11回 賢木巻の演習 第12回 須磨巻の演習 第13回 明石巻の演習 第14回 藤裏葉巻の演習 第15回 『源氏物語』第1部のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	『源氏物語』の展開を理解できるよう、その流れを確認しておく。 『源氏物語』の本文が読解できるよう、古典語彙や文法について学習しておくこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習の発表内容 60% 小テスト 20% 演習に対する取り組み 20%						
教科書	常用源氏物語要覧 中野幸一編（武蔵野書院）4－8386－0383－5						
参考書	『源氏物語評釈』（角川書店） 新日本古典文学大系『源氏物語』（岩波書店） 新日本古典文学全集『源氏物語』（小学館） 『源氏物語図典』（小学館） その他については、授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	丸山 果織						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	本演習では、まず日本の美術の展開（飛鳥～江戸時代）について理解する。「余白」「間」という視点から書、絵画、工芸、また、茶道や華道などの分野に注目し、日本文化について考察していく。						
到達目標	日本の美術の展開を理解し、日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。						
授業計画	1) ガイダンス（演習の進め方、注意事項について） 2) 飛鳥時代 3) 奈良時代 4) 平安時代① 5) 平安時代② 6) 平安時代③ 7) 平安時代④ 8) 鎌倉時代 9) 室町時代、桃山時代 10) 江戸時代① 11) 江戸時代② 12) 江戸時代③ 13) 江戸時代④ 14) 各自の関心事について小発表① 15) 各自の関心事について小発表②、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20% レポート・小テスト30% 演習の取り組み及び発表50%						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代小説の諸問題						
授業の概要	中島京子の『小さいうち』を読む。中島京子は『小さいうち』で2010年度上半期の直木三十五賞を受賞した作家である。前期に引き続き、中島京子を視座として、現代小説における諸問題を考える。						
到達目標	現代小説の実態把握と現代の日本語や文化風俗への認識深化						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本の家族制度 第3回 昭和初期 第4回 回想録 第5回 女中の存在 第6回 結婚 第7回 戦争の影 第8回 国際化の問題 第9回 婚活小説 第10回 就活小説 第11回 現代日本語 第12回 現代小説の問題 第13回 直木三十五賞 第14回 出版文化 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の文化風俗や現代日本語について詳しく学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%						
教科書	中島京子『小さいうち』 文春文庫 ISBN 978-4-16-784901-6						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなしているからです。 そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。 第2演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような、小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。留学生との合同授業を行う場合もあります。						
到達目標	① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。 ② 卒論につながるテーマを見つけることができる。 ③ 参考文献や資料をさがすことができる。						
授業計画	第1回 夏期レポートの講評と問題点の発見 1 第2回 夏期レポートの講評と問題点の発見 2 第3回 夏期レポートの講評と問題点の発見 3 第4回 用例採取の方法 1 第5回 用例採取の方法 2 第6回 各自のテーマの発表と質疑応答 1 第7回 各自のテーマの発表と質疑応答 2 第8回 各自のテーマの発表と質疑応答 3 第9回 各自のテーマの発表と質疑応答 4 第10回 各自のテーマの発表と質疑応答 5 第11回 各自のテーマの発表と質疑応答 6 第12回 各自のテーマの発表と質疑応答 7 第13回 各自のテーマの発表と質疑応答 8 第14回 各自のテーマの発表と質疑応答 9 第15回 第2演習のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表があたった問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする。						
評価基準と評価方法	平常点（50％）発表（20％）レポート（30％）						
教科書	適宜ハンドアウトを配布						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	『古今集遠鏡』を教材とする通時的対照日本語研究 この演習では『古今集遠鏡（とほからみ）』（以下『遠鏡』）を輪讀・逐語訳しつゝ、現代日本語の特徴を掴む目的で、平安時代、江戸時代、現代の日本語に認められる共通点・相違点を学ぶ。就職活動などを考慮すると、卒業研究の研究課題は4回生までに定めておくのが理想的ではあるが（実際、黒木の第一演習Bはそうに進めてある）、この演習でそれを見附けるのも悪くはない。 『遠鏡』は、国學者として名高い本居宣長が寛政5（1793）年頃に書いた『古今和歌集』の註釋書である。この文獻において興味深いのは、宣長が『古今和歌集』の歌に對して附けた、當時 = 18世紀末の日本語（宣長は伊勢松坂出身であるから、近畿方言に基づくものか）による註釋である。元の歌、宣長譯、現代語譯を対照すれば、3種類の日本語の共通点・相違点を掴むことができる。						
授業の概要	下記到達目標を達成する爲の講義および演習。						
到達目標	古典の讀解力を高める。 古典に關する文獻學的知識を身に附ける。 文語文法を言語學的に分析し、國文法の長所および短所を知る。 學說が必ずしも定つてゐない事を知る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明と受講生各自の擔當範圍の決定 02: 講讀用資料作成の指導（1） 03: 講讀用資料作成の指導（2） 04: 講讀用資料作成の指導（3） 05: 發表擔當者を中心とする講讀演習（1） 06: 發表擔當者を中心とする講讀演習（2） 07: 發表擔當者を中心とする講讀演習（3） 08: ここまでの問題點の反省 09: 發表擔當者を中心とする講讀演習（4） 10: 發表擔當者を中心とする講讀演習（5） 11: 發表擔當者を中心とする講讀演習（6） 12: ここまでの問題點の反省 13: 發表擔當者を中心とする講讀演習（7） 14: 發表擔當者を中心とする講讀演習（8） 15: 總括						
授業外における学習（準備学習の内容）	講讀用資料作成。 論文讀解。						
授業方法	講義および演習。						
評価基準と評価方法	發表：40點 質疑應答：20點 學期末報告書：40點 特段の理由無く3回以上欠席した者は、その最終成績を0點とする。						
教科書	圖書館に所蔵されてゐる次の書籍を使ふので、購入の必要は無い。 今西 祐一郎（校注）『古今集遠鏡1』（東洋文庫770）、平凡社 今西 祐一郎（校注）『古今集遠鏡2』（東洋文庫772）、平凡社						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	自分のことばを分析する						
授業の概要	実際にゼミ生の会話を録音したものを文字に起こし、それを資料として分析していく。時間が限られているとはいえ、音声を伴った談話資料には、音声事象から形態・統語事象、談話全体に及ぶ事象まで、研究・分析すべき素材が詰まっている。また、方言学・社会言語学的観点からの切り口もあるだろう。後期は、前期に作った資料を用いて、自分の好きなテーマで好きな角度から分析を試みてもらいたい。						
到達目標	・興味や関心をもとに、適切な先行研究を探して参照することができるようになる。 ・目的に応じた的確な分析をすることができるようになる。 ・他人の発表に際し、積極的に関心を持って質問や意見を言うことができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 先行研究の探し方・分析の方法 第3回 発表① 第4回 発表② 第5回 発表③ 第6回 発表④ 第7回 発表⑤ 第8回 発表⑥ 第9回 発表⑦ 第10回 発表⑧ 第11回 発表⑨ 第12回 発表⑩ 第13回 発表⑪ 第14回 発表⑫ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題とした発表資料作成など、授業外での準備が大切となるため、念入りに準備すること。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等（他人の発表に対する参加態度等も含む）の評価60%とレポート40%						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	『源氏物語』と王朝文化の探究						
授業の概要	我が国の古典文学の中で屹立する存在である『源氏物語』の演習をおこなう。『源氏物語』は千年もの間、連綿と読み継がれ、後世の文学や文化全般に多大な影響を及ぼしてきた。本演習では、その『源氏物語』の魅力を明らかにできるよう、読んでいきたい。ただし『源氏物語』は五十四帖にも及ぶ大部な物語なので、授業でその全体を細かく読解して行くのは難しい。そこで、本演習では、本学図書館所蔵の3種の「源氏物語かるた」や「絵入り源氏物語題」の版本を題材にして、そこに書かれた歌や文章を読み解き、また、描かれた絵の場面を解明することを入り口として、そこに書かれた歌や本文を読み解き、また、描かれた絵の場面を解明し、『源氏物語』の絵巻や画帖の絵にも注目しながら、『源氏物語』の世界を考察して行く。						
到達目標	『源氏物語』の展開を説明できる。 『源氏物語』の本文が読解できる。						
授業計画	第1回 『源氏物語』の巻名と梗概についての講義 第2回 若菜上巻の演習 第3回 若菜下巻の演習 第4回 柏木巻の演習 第5回 鈴虫巻の演習 第6回 夕霧巻の演習 第7回 御法巻の演習 第8回 幻巻の演習 第9回 匂宮巻の演習 第10回 橋姫巻の演習 第11回 総角巻の演習 第12回 東屋巻の演習 第13回 浮舟巻の演習 第14回 夢浮橋巻の演習 第15回 『源氏物語』第2部・第3部についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	『源氏物語』の展開を理解するよう、その流れを確認しておく。 『源氏物語』の本文が読解できるよう、古典語彙や文法について学習しておくこと。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習の発表内容 60% 小テスト 20% 演習に対する取り組み 20%						
教科書	第2演習Aと同じものを使用する。						
参考書	『源氏物語評釈』（角川書店） 新日本古典文学大系『源氏物語』（岩波書店） 新日本古典文学全集『源氏物語』（小学館） 『源氏物語図典』（小学館） その他については、授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	丸山 果織						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	本演習では、日本の美術の展開（明治～現代）について理解する。「余白」「間」という視点から書、絵画、工芸、また、茶道や華道などの分野に注目し、日本文化について考察していく。						
到達目標	日本の美術の展開を理解し、日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。						
授業計画	1) 明治時代① 2) 明治時代② 3) 明治時代③ 4) 大正時代① 5) 大正時代② 6) 大正時代③ 7) 昭和初期① 8) 昭和初期② 9) 戦中・戦後① 10) 戦後② 11) 現代 12) 各自の関心事について発表① 13) 各自の関心事について発表② 14) 各自の関心事について発表③ 15) まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。						
授業方法	購読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20% レポート・小テスト30% 演習の取り組み及び発表50%						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本書道史						
担当教員	丸山 果織						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の書は、中国から漢字を受容することから始まり、日本独自の美意識のもと、展開されてきた。その中で、各時代の社会的背景も大きく関わる。今日に至るまでの日本の書の変遷を理解することで、日本文化について考えていく。						
授業の概要	日本書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景をふまえ当時の書の特徴を理解する。文字を受容してから戦後現代に至るまでの日本の書について考察する。その際、具体的な作品を取り上げ、鑑賞しながら進める。						
到達目標	日本の書の展開、各時代の書の特徴について理解し、自分自身の言葉で論じることができる。その際、社会的、文化的背景についても論じることができる。						
授業計画	1) ガイダンス、日本書道史について 2) 漢字の伝来以前と漢字の受容 3) 奈良時代①（中国の書） 4) 奈良時代②（天平文化・万葉仮名） 5) 平安時代前期（唐様・三筆とその周辺） 6) 平安時代中期～後期①（和様・三蹟とその周辺） 7) 平安時代中期～後期②（仮名の誕生から完成） 8) 平安時代中期～後期③（仮名と古今和歌集、料紙） 9) 平安時代末期～鎌倉時代（俊成・定家、平家納経） 10) 室町時代（墨跡） 11) 安土桃山～江戸初期（寛永の三筆とその周辺） 12) 江戸時代～明治初期（御家流、文人の書） 13) 明治・大正時代（楊守敬の来日、古筆復興、毛筆廃止論） 14) 昭和初期・戦後現代 15) 今日の書、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行う。						
授業方法	講義、グループワーク、ディスカッション						
評価基準と評価方法	平常点20% 課題・レポート40% テスト40%						
教科書	『日本書道史年表』名児耶明編（二玄社）1470円＋税金 適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶA						
担当教員	恵阪 友紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術工芸における平安文学の享受の研究						
授業の概要	平安時代の物語や歌集は、その後も長く読み継がれ、後世に多大な影響を与えてきた。影響は文学作品だけにとどまらず、書や絵画をはじめ、美術工芸など文化全般に享受され、多くの作品を生み出している。美しい料紙に流麗な文字で書かれた『西本願寺本三十六人集』や『元永本古今和歌集』などの豪華な装飾本歌集や、国宝『源氏物語絵巻』や『伊勢物語絵巻』などの絵巻から、王朝文化の華やかさや技術の高さをうかがうことができる。 本授業では、このような平安文学の影響のもとに制作された美術・工芸品について、もとの平安文学を鑑賞するとともに、それがどのように享受されてきたか、その様相を講義する。 美術・工芸品について理解しやすいように、複製を示したり、パソコンやDVDの画像をプロジェクターで示したりしながら解説する。						
到達目標	美術・工芸品における平安文学の享受の様相を具体的に理解することができる						
授業計画	第1回 平安文学と美術・工芸品についての概説 第2回 『古今和歌集』の写本 第3回 屏風歌と屏風絵 第4回 『西本願寺本三十六人集』 第5回 歌仙絵と『佐竹本三十六人集』 第6回 古筆切と手鑑 第7回 冷泉家の至宝 第8回 『平家納経』などの装飾経 第9回 国宝『源氏物語絵巻』 第10回 『伊勢物語絵巻』 第11回 本阿弥光悦と嵯峨本（古活字本）の刊行 第12回 俵屋宗達と『伊勢物語図色紙』 第13回 尾形光琳の『伊勢物語』享受 第14回 古典文学をモチーフとした調度や衣装 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	古典文学と関わりのある美術・工芸品については、書籍以外にもテレビ番組や展覧会などに取り上げられることが多い。興味を持って自ら作品に触れる機会を設けること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（60％）、レポート（20％）、課題（20％）						
教科書	『すぐわかる 日本の伝統色』（改訂版） 福田邦夫著、東京美術、ISBN978-4-8087-0938-9 ※ プリントを併用する						
参考書	講義中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶB						
担当教員	大坪 亮介						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中世文学のなかの女性						
授業の概要	古典文学と女性といえば、平安時代に書かれた物語や日記を思い浮かべがちだが、鎌倉・室町時代にかけて生み出された作品にも、女性の姿は極めて印象的に描かれている。本授業では代表的な作品を取り上げ、絵巻などの周辺資料も視野に入れつつ、そこに描かれた様々な女性の姿を浮き彫りにしていく。						
到達目標	中世に生み出された代表的な古典作品の読解を通じて、中世社会に生きた女性の諸相を理解する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 『平家物語』①～権力者に翻弄された白拍子～ 第3回 『平家物語』②～武器を取り戦った巴御前～ 第4回 『平家物語』③～平家一族の鎮魂を担った建礼門院～ 第5回 『建礼門院右京大夫集』～戦場に散った恋人を思う～ 第6回 『問はず語り』①～後深草院の寵愛を受けた二条～ 第7回 『問はず語り』②～二条の遍歴～ 第8回 『問はず語り』③～母となった二条～ 第9回 『問はず語り』④～仏に仕える日々～ 第10回 『曾我物語』①～曾我兄弟の仇討ちと女性～ 第11回 『曾我物語』②～曾我兄弟の鎮魂と女性～ 第12回 謡曲のなかの女性①～鬼となった女性～ 第13回 謡曲のなかの女性②～我が子を求める母～ 第14回 狂言の中の女性～「わわしい」女～ 第15回 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習などは特に必要ないが、授業後はその日の学習内容を振り返っておくこと。授業中引用する古典本文の意味についてはこちらから解説を加えるが、中学・高校時代に学習した古典の内容（特に単語・文法）を復習しておけば、授業内容はより理解しやすくなるだろう。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	平常点50%、試験50%						
教科書	プリント配付。						
参考書	脇田晴子『中世に生きる女たち』（岩波新書、1995年） その他、適宜授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶD						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本芸能史入門・歌舞伎						
授業の概要	江戸時代を代表する芸能である歌舞伎について考える。異常な行動をすることを戦国末期には「かぶく（傾く）」といい、熱病のように流行した。社会の混乱の中でこうした異常な行動を取る「かぶきもの」が増えていったが、やがてその精神だけが芸能として残った。それが「かぶき」である。現代にも続くこの芸能について、入門者用にその概略を考えてみたい。						
到達目標	日本文化の代表の一つである歌舞伎の基礎と概要について説明することができる。						
授業計画	第1回 歌舞伎入門 第2回 「かぶき」前夜 風流の時代 第3回 「かぶき」誕生 出雲のお国 第4回 遊女かぶきから若衆かぶきへ 第5回 野郎かぶきの時代 第6回 元禄歌舞伎の成立 第7回 元禄期の興行システム 第8回 絵島事件から享保の改革 第9回 人形浄瑠璃と歌舞伎 第10回 人形浄瑠璃の歴史 第11回 歌舞伎と浄瑠璃の交流 義太夫狂言 第12回 18世紀後半の歌舞伎 天明歌舞伎 第13回 19世紀の歌舞伎 化政文化と歌舞伎 第14回 近代の歌舞伎 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のＡＶセンターにあるＤＶＤで舞台映像を見て学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50％ 期末テスト50％						
教科書	プリントを配布。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化入門						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化ういまなび						
授業の概要	日本とは何かを見つめ、文化の何たるかを様々な視点から検討することで、今、我々が生きていることの意味を問い直す。						
到達目標	日本とその文化について客観的な眼で見る習慣を身に着け、自らの生き方を主体的に選択できるようにする。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本文化とは 第3回 日本の範囲 第4回 年間行事 第5回 民間暦 第6回 中央と地方の問題 第7回 西日本の文化 第8回 東日本の文化 第9回 北日本と南日本 第10回 食文化 第11回 出版文化 第12回 観光と文化 第13回 文化的営み 第14回 日本文化と筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	様々なジャンルの本を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
教科書	三浦しをん『ふむふむ—おしえて、お仕事！』新潮文庫 ISBN：978-4-10-116763-3						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化入門						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化ういまなび						
授業の概要	日本とは何かを見つめ、文化の何たるかを様々な視点から検討することで、今、我々が生きていることの意味を問い直す。						
到達目標	日本とその文化について客観的な眼で見る習慣を身に着け、自らの生き方を主体的に選択できるようにする。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本文化とは 第3回 日本の範囲 第4回 年間行事 第5回 民間暦 第6回 中央と地方の問題 第7回 西日本の文化 第8回 東日本の文化 第9回 北日本と南日本 第10回 食文化 第11回 出版文化 第12回 観光と文化 第13回 文化的営み 第14回 日本文化と筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	様々なジャンルの本を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
教科書	三浦しをん『ふむふむ—おしえて、お仕事！』新潮文庫 ISBN：978-4-10-116763-3						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文学史A						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学の歴史						
授業の概要	日本文学の歴史を考える。「日本文学史A」では主として古典文学として扱われているものの歴史を追う。日本の成り立ち、先人の培ってきた遺産、現代の古典文学需要のありさまを多角的に学ぶ。						
到達目標	日本文学の歴史について考えることを通じて、現在に生きる古典文学への理解を深める。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本について 第3回 文学史を考えること 第4回 上代文学 第5回 口承文学 第6回 中古文学 第7回 貴族の文学 第8回 中世文学 第9回 武士の文学 第10回 動乱の文学 第11回 近世文学 第12回 町人の文学 第13回 幕末の文学 第14回 現在に生きる古典・筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	視野を広く持ち、古典文学作品を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解することを目指す						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の散文 導入 第4回 明治期の散文 応用 第5回 明治期の韻文 第6回 大正期の散文 導入 第7回 大正期の散文 応用 第8回 大正期の韻文 第9回 昭和期の散文 導入 第10回 昭和期の散文 応用 第11回 昭和期の韻文 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	『近代文学年表』双文社出版						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	文法・敬語の基礎知識						
担当教員	黒木 邦彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の文法および敬語。						
授業の概要	下記到達目標を達成する爲の講義とそれに基づく試験。						
到達目標	言語の構造を捉へて、「文法」といふ言葉に対する漠然としたイメージを具体化する。 日本語の敬語の仕組みを知り、運用できるようになる。 學が必ずしも定まってゐないことを知る。 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 名詞の構造 03: 動詞の構造 04: イ形容詞とナ形容詞 05: 屈折語、膠着語、孤立語の差異 06: 文の構造 (1): 語、句、節 07: 文の構造 (2): 節の構成要素 08: 文章指導 09: 文の構造: 南不二男の研究成果 10: 尊敬語、謙讓語、丁寧語の違い 11: 敬語におけるウチとソト 12: 視点と授受表現 13: 敬語史概観 14: 【試験】 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習（準備学習の内容）	教員が manaba にアップロードする豫習資料は事前に読んでおくこと。 授業は豫習 (= 事前讀書) を前提に進める。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	日々の課題およびその添削: 50点 試験: 50点 出席点は無く、出缺も取らない。						
教科書	教員が manaba にアップロードする資料。						
参考書	上山 あゆみ (1991) 『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』、くろしお出版 風間 伸次郎 (1992) 「接尾型言語の動詞複合体について: 日本語を中心として」、 宮岡伯人 (編) 『北の言語: 類型と歴史』、pp. 241-60、三省堂 菊地 康人 (1994) 『敬語』、角川書店 [文庫版: 講談社学術文庫1268、講談社、1997年] 清瀬 義三郎則府 (1971) 「連結子音と連結母音と—日本語動詞無活用論—」、 『国語学』86、pp. 42-56、国語学会 小泉 保 (1993) 『日本語教師のための言語学入門』、大修館書店 服部 四郎 (1960) 『言語学の方法』、岩波書店 南 不二男 (1962) 「三 文法」、国語学会 (編) 『方言学概説』、pp. 209-55、武蔵野書院 南 不二男 (1974) 『現代日本語の構造』、大修館書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの基礎						
担当教員	吉岡 美賀子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広義のプレゼンテーションにおける技術の理解と習得						
授業の概要	発声練習をはじめ、発音、アクセント、滑舌など、発話の基礎に触れる。その後、コマーシャル、フリートークなど、場面を想定してプレゼンテーションの実践に取り組む。なおその際の実稿は、自分で作るようになる。相手にいかにわかりやすく伝えることができるか、その方法を具体的に学ぶ。						
到達目標	人前で話すために必要な技術、心構えを理解し、様々な場面を想定して実践する。						
授業計画	第1回 発声練習 第2回 滑舌練習 第3回 アクセント 第4回 一番短いプレゼンテーション—CM 第5回 CM読みの実践1 第6回 CM読みの実践2（声の表情を変えて） 第7回 CM読みの実践3（評価対象） 第8回 第一印象の作り方 第9回 フリートーク 第10回 ビブリオバトルとは 第11回 ビブリオバトルの実践（仕上げ） 第12回 朗読について 第13回 原稿の作り方 第14回 朗読の実践 第15回 読み聞かせ （受講者数によって内容が前後することがあります。）						
授業外における学習（準備学習の内容）	◎ビブリオバトル—5分間で本を紹介する。紹介したい本を選んで、紹介ポイントを探しておく。 ◎朗読—題材は自由。時間は2分程度。コピー、手書き等で原稿を作り、読むときの工夫を書きこんでから、一部コピーしたものを発表時に提出すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	実技40%、ミニレポート（授業の中で提出）60%。欠席は減点、遅刻は3回で欠席1回と同等扱い。3分の2以上の出席と課題実技（CM読み・朗読）がなければ、単位は認めない。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	マスメディア論A						
担当教員	浮田 哲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアリテラシー						
授業の概要	新聞、テレビ、雑誌など既存のメディアに加え、インターネットを介した様々な情報の流通ルートが発展し、現代社会は、以前にも増して膨大な情報に溢れている。そんな情報の洪水の中で、我々はどのようにメディアに接し、どう解説すればいいのか。この授業では、そんなメディアとの付き合い方、いわゆるメディアリテラシーについて考察する。なお、テレビをはじめとする映像に関しては後期のマスメディア論Bで集中して扱う予定。						
到達目標	・異なったメディアの特性の違いについて説明することができる ・新聞社によって、どのように論調が違うかを指摘できる ・ニュースの情報源がどこかを指摘できる ・ニュースに隠された“意図”を読み解くことができる ・日常的にニュースに興味を持てるようになる						
授業計画	1. ガイダンス 概論および授業の進め方と今後の方針の説明 2. メディアとは何か？ 3. 我々はどんなメディアに触れてきたのか 4. 新聞を読む① ニュースソースに注目する 5. 新聞を読む② 各紙の紙面づくりと論調の違いについて検討する 6. 新聞を読む③ 新聞の抱える問題 7. 統計調査の「落とし穴」とは 8. 雑誌を読む① スクープの構造 9. 雑誌を読む② 企業ジャーナリズムとフリーランス 10. 出版と表現① 「絶歌」（元少年Aの手記）には何が書いてあるのか 11. 出版と表現② 「絶歌」出版をめぐる問題の検討 12. インターネットを見る① 個人情報を守りながら 13. インターネットを見る② ネットにおけるジャーナリズムの可能性 14. インターネットを見る③ ネット動画との付き合い方 15. まとめとレポート提出 ※講義の最初に一週間のニュースを振り返って解説し、メディアリテラシーの見地から検討します ※ニュースという「生もの」を扱うので、ニュースによって内容が変わることもあります						
授業外における学習（準備学習の内容）	この授業はメディアリテラシーをテーマにしていますが、その基本は日常生活の中で日々のニュースに積極的に接することです。新聞を読み、テレビのニュースを視聴し、興味を持った事柄についてはネットでも検索する。生活の中でそういう“クセ”を身に着けるようにしてください。						
授業方法	講義中心。積極的に発言してください。 課題を提出し、そのフィードバックで講義を進めることもあります						
評価基準と評価方法	課題40% 期末レポート40% 講義態度20%						
教科書	特になし						
参考書	講義の時に適宜紹介します						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	マスメディア論B						
担当教員	浮田 哲						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	メディアリテラシー（特に映像リテラシー）						
授業の概要	様々な情報の中でも、映像情報は見る人に対する影響力が極めて大きい。また、映像情報はともすれば「映っているもの＝真実」と捉えられがちで、歴史を振り返ってみても映像による情報操作が行われた例がいくつもある。この授業は前期の「マスメディア論A」を発展させ、特に映像に特化した形でメディアリテラシーについて考察する。						
到達目標	・映像の成り立ちを考えながら番組を見ることができる ・編集やナレーションによって、印象が変わる具体例を説明できる ・一見自然な映像の“不自然さ”を指摘できる ・いわゆる「ヤラセ」の是非について自分の意見を持てる						
授業計画	1. ガイダンス 概論および授業の進め方と今後の方針の説明 2. カット割りと制作者の意図 3. ドキュメンタリーの手法と演出① 編集によるマジック 4. ドキュメンタリーの手法と演出② 音効による臨場感と劇的効果 5. ドキュメンタリーの手法と演出③ ナレーションによる誘導 6. ドキュメンタリーの手法と演出④ 無いシーンは作る 7. ドキュメンタリーの手法と演出⑤ 演出の範囲とは 8. 教科書「テレビの嘘を見破る」から① どこまで見破れますか 9. 教科書「テレビの嘘を見破る」から② ドキュメンタリーの歴史 10. 教科書「テレビの嘘を見破る」から③ 「戦ふ兵隊」を巡る問題 11. 教科書「テレビの嘘を見破る」から④ 再現と演出 12. 教科書「テレビの嘘を見破る」から⑤ NHK「ムスタン」を巡る問題 13. 教科書「テレビの嘘を見破る」から⑥ 制作者に求められるもの 14. インターネットの動画サイトの付き合い方 15. まとめとレポート提出 ※前半は私がかつて演出した「情熱大陸」などを視聴しつつ、映像の基本的な成り立ちを学びます ※後半は教科書を基に、さらに考察を深めます						
授業外における学習（準備学習の内容）	この授業では映像を扱います。パラエティーでもドラマでも、またネット動画でも構わないので、気に入った映像作品はしっかりと見るように心がけて下さい。						
授業方法	講義が中心。実際の映像を見ることもあります。 課題を提出することもあります。						
評価基準と評価方法	課題30% 期末レポート40% 受講態度30%						
教科書	「テレビの嘘を見破る」今野勉 新潮新書 ISBN-10: 4106100886 ISBN-13: 978-4106100888						
参考書	講義中に適宜紹介します。						